

Light you up



DAIHATSU

01999-B5281

HIJET スローパー ATRAI スローパー

取扱説明書

よくお読みになって使用してください。
取扱説明書はお車の中に保管しましょう。



このたびは、ダイハツ車をお買い上げいただき、 ありがとうございます。

- 本書は、ハイゼット スローパー・アトレー スローパーの正しい取り扱い方や、お手入れの方法などについて説明している他、お車を操作する上で必ず守っていただきたいこと、また、万一のときの処置についても記載しています。安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。
- 基本的な内容は同梱のハイゼット カーゴ／アトレー取扱説明書をご覧ください。

ご愛車のために

- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認した上で操作を行ってください。車両型式、エンジン型式はハイゼット カーゴ／アトレー取扱説明書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくとう便利です。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますのでお読みください。
- ダイハツサービス工場で取り付けられた装備の取り扱いについては、添付されている取扱説明書を参照してください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書をお車に付けておいてください。
 - 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
 - 本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
 - ご不明な点は、ご購入先のダイハツサービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に必ずお読みいただきたいこと

2 シート・室内装備

シート・室内装備に関する説明

3 車いすの車内外への乗降

スロープを使用して車いすに乗ったままでの車内外への乗降、車いすの車内での固定・解除に関する説明

4 お手入れのしかた

ハイゼット／アトレー スローパー専用装備のお手入れに関する説明

5 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

6 車両情報

お車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

7 点検・整備項目

定期点検整備についての説明

さくいん

症状から検索

音から検索

五十音で検索

イラスト目次	4
本書の見方	8

1 安全・安心のために

1-1. 安全なドライブのために

車いすの車内外への 乗降について	10
車いすの固定およびシート ベルトの着用について	15
車両火災・故障・損傷を 防ぐために	17

2 シート・室内装備

2-1. シート

シートの構成および 標準車との相違点	20
リヤシート	21
チャイルドシート	24

2-2. 室内装備

その他の室内装備	27
----------------	----

3 車いすの車内外への乗降

3-1. スロープを使用する前に

ご使用前に確認して いただきたいこと	32
-----------------------------	----

3-2. 車いすの車内外への乗降・固定

操作の流れ	36
作動条件の確認	40
スロープの展開・格納	42
車いすの車内外への乗降	48
車いすの車内での 固定・解除	60
車いす乗車者用 3 点式 シートベルトの使いかた	65

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

スロープの清掃	74
ベルトの清掃	76
車いす乗車スペースの清掃	77

5 万Oneの場合には

- 5-1. パンクしたときは
パンクしたときは 80
- 5-2. 故障かな? とお考えになる前に
ヒューズの交換 95
ワイヤレスリモコンの
電池交換 97
- 5-3. 緊急時の対処法
電動ウインチが
作動しないときは 99
車両を輸送するときは 103

6 車両情報

- 6-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ 106

7 点検・整備項目

- 7-1. 点検・整備項目
定期点検整備 108

さくいん

- こんなときは
(症状別さくいん) 110
- お車から音が鳴ったときは
(音さくいん) 114
- 五十音順さくいん 115

1

2

3

4

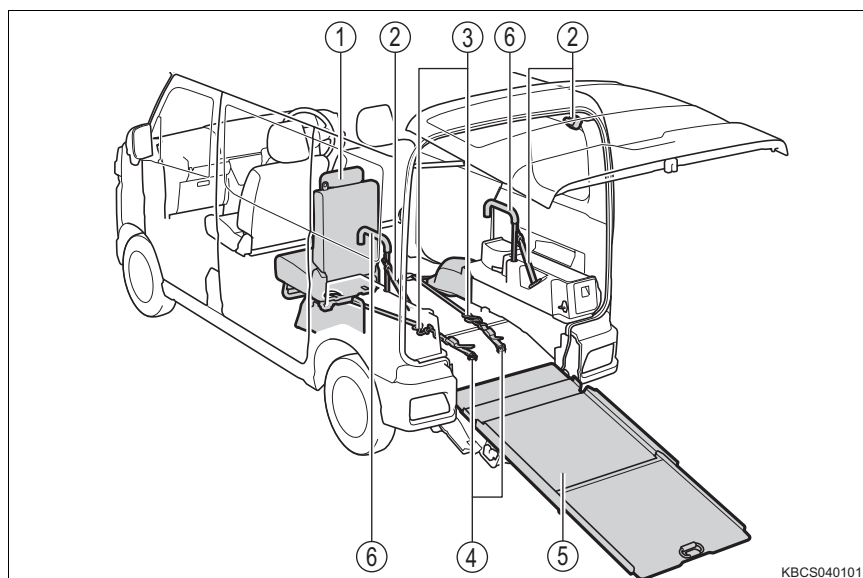
5

6

7

イラスト目次

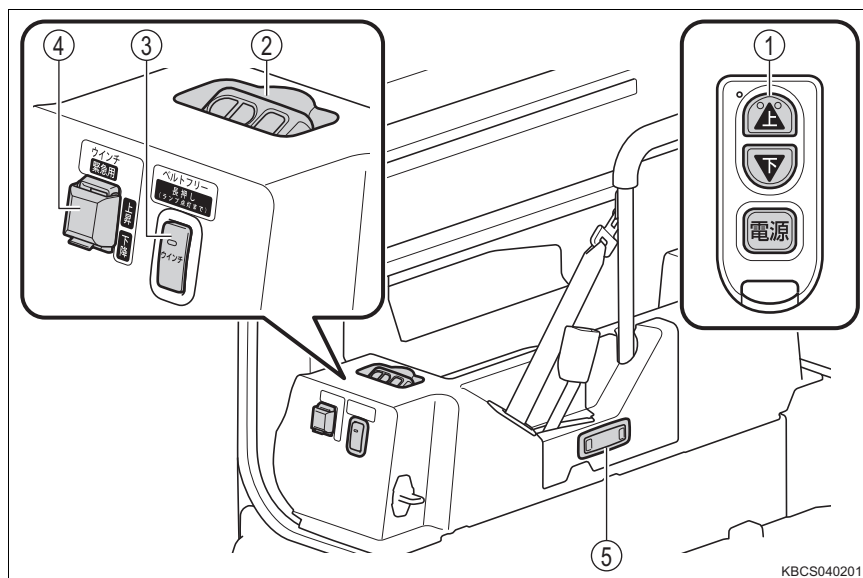
▶ハイゼット／アトレー スローパー専用装備



① リヤシート	P. 21
② 車いす乗車者用 3 点式シートベルト	P. 65
着用	P. 66
清掃	P. 76
③ ウインチベルト（電動ウインチ）	P. 48
車いすの車内への乗り入れ	P. 49
車いすの車外への降車	P. 51
作動条件	P. 40
清掃	P. 76
作動しないときは	P. 99
④ 車いす固定ベルト	P. 60
車いすの固定	P. 60
車いすの固定解除	P. 62

⑤ スロープ	P. 42
展開	P. 42
格納	P. 43
スロープ前倒し機構	P. 44
清掃	P. 74
⑥ 手すり	P. 28

▶ハイゼット／アトレー スローパー専用装備（リモコン・スイッチ・照明）



- | | |
|---------------------|-----------|
| ① ワイヤレスリモコン | P. 48 |
| 車内への乗り入れ | P. 49 |
| 車外への降車 | P. 51 |
| 電池交換 | P. 97 |
| ② リモコンポケット | P. 29 |
| ③ ベルトフリースイッチ | P. 49, 51 |
| ④ 緊急用ウインチスイッチ | P. 100 |
| ⑤ フロア照明灯 | P. 28 |

本書の見方



警告

お守りいただかないと、お客様ご自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



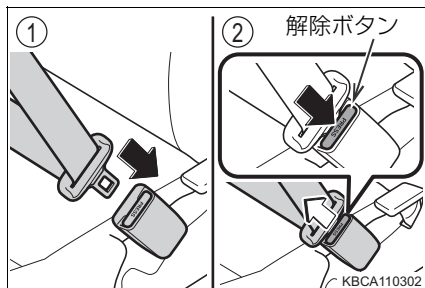
注意

お守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1**2****3**... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

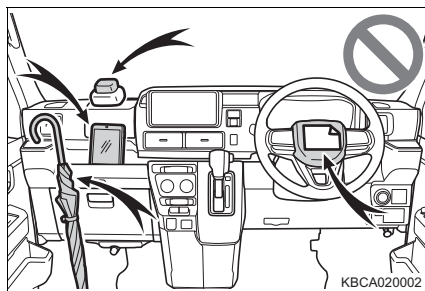
➡: 押す・回すなど、していただきたい操作を示しています。

➡: ふたが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡: 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘: “してはいけません”
“このようにしないでください”
“このようなことを起こさないでください”という意味です。



知識

機能や操作方法の説明以外で知っていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全なドライブのために

車いすの車内外への 乗降について	10
車いすの固定およびシート ベルトの着用について	15
車両火災・故障・損傷を 防ぐために	17

車いすの車内外への乗降について

本書におけるハイゼット／アトレー スローパーの操作はすべて介助の方が行ってください。

この項目では、スロープおよび電動ウインチを使用しての車内外への乗降について、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

⚠ 警告

■ ハイゼット／アトレー スローパーの操作をするときは

操作はすべて介助の方が安全に十分注意しながら行ってください。

- 車いす乗車の方が操作すると、手足を挟まれたり、車いすがスロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 急に車いすの乗降を行うと、車いす が転倒するおそれがあり危険です。車いすでの乗降は、車いすの車輪の位置、乗車の方の頭上、腕、足元などに注意しながらゆっくりと行ってください。(車いすを車外に降ろすときは特にご注意ください)
- 車内を移動するときは、車いす乗車の方の手足や腕がシートなどに挟まれないように注意してください。
- スロープ本体および車いすが確実に固定およびロックされていること、あるいはリヤシートがロックされていることを確認してください。また、バックドアが確実にロックされていることを確認してください。各操作は、一つ一つ確認しながら確実に行ってください。指定通り確実に固定およびロックされていないと走行中に外れ、思わぬ事故につながったり、けがをしたりするおそれがあります。



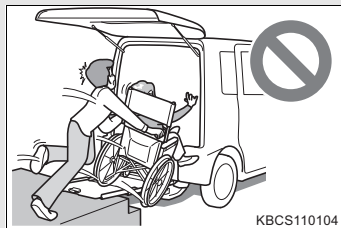
警告**■スロープを使用する前に**

- 安全で平坦な場所に駐車してください。交通量の多い道路や狭いところ、不整地や傾斜地でスロープを使用すると、思わぬ事故や車両の損傷につながるおそれがあり危険です。

- ・安全で平坦な場所に駐車する
- ・パーキングブレーキを確実にかける
- ・シフトレバーをPにする

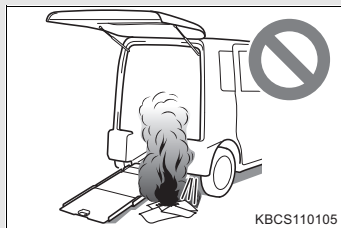
- 階段や段差を利用して車いすの乗り入れをしないでください。

段差を利用すると車いすがスロープから転落したり、スロープが段差から外れて破損するなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。



- 可燃物付近に駐車しないでください。

車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災になるおそれがあり危険です。



- 悪天候時、スロープを使用するときは、滑りやすくなりますのでご注意ください。

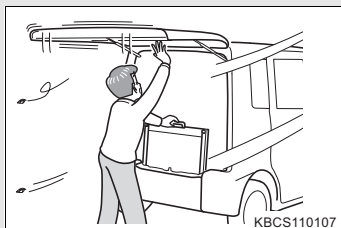
風の強い場所や風雨の強い日、降雨時や降雪時などは特に注意してください。



警告

- 強風時、バックドアが閉まることがあります。

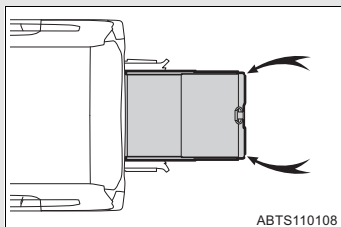
バックドアが頭に当たるおそれがありますので、注意してください。



■ スロープに車いすを乗降するときは

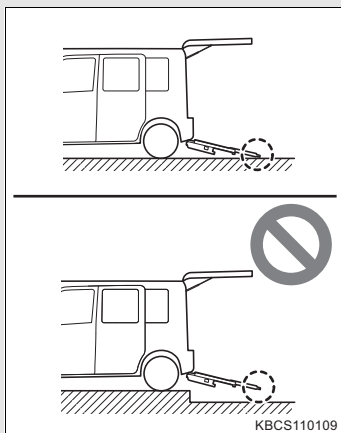
- スロープに乗降するときは、足元および車いすの車輪がスロープ端部より出ないように注意してください。

スロープ端部より出ると、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

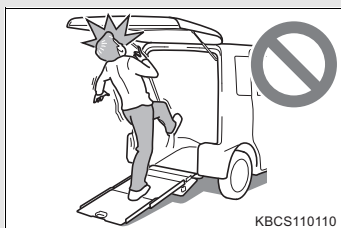


- スロープ展開後、スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。

段差やスロープ下部にものが当たるなどにより、スロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏み外して転倒したり、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。



- 頭上の安全を確認しながらゆっくり乗り入れ、頭をバックドアやドア開口部に当たらないように注意してください。

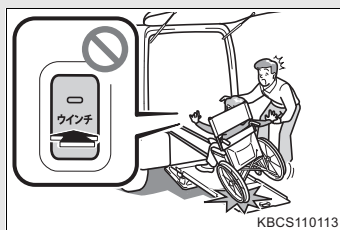


！ 警告

- 不要なスイッチ類の操作をしないでください。

装置の不意な作動により、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ・ ベルトフリースイッチを長押しすると、後退防止機能が解除されます。

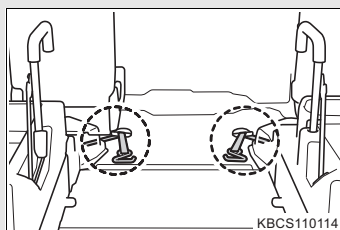


■ 電動ウインチを使用するときは

電動ウインチ作動時、ウインチベルトやベルト巻き取り部に触れないでください。

ベルトの巻き取り不良やベルト巻き取り部に手などを巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⦿: ベルト巻き取り部



■ 車内後部のカバーについて

車内後部のカバーの上に乗ったり、座ったりしないでください。

- カバーから転落してけがをするおそれがあります。
- カバーの中には装置の作動をコントロールする機器が設けてあります。過度な力が加わるとカバーの破損や機器の故障の原因になります。



■ 走行するときは

- 車いす乗車時は、特に急発進、急ブレーキ、急旋回など「急」のつく運転はしないでください。急な操作をすると、強い力が人や車いすおよび固定装置などに加わり、大変危険です。

また、車いすの座席位置が高いため、車いすに乗車の方は車酔いしやすいくなります。

安全に十分注意し、スピードを控えめに運転してください。

警告

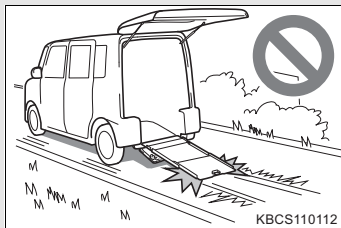
- 車いす乗車時に衝突回避支援ブレーキ機能が作動すると、強い力が人や車いすおよび固定装置などに加わる場合があります。

安全に十分注意し、スピードを控えめに運転してください。

衝突回避支援ブレーキ機能について詳しくは、別冊「ハイゼットカーゴ／アトレー取扱説明書」を参照してください。

- スロープを展開したままお車を移動させないでください。

スロープを展開したままお車を移動させると、スロープの破損やスロープおよびバックドアが車外の人やものに当たるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- 車いす乗車時は、ウインチベルトと車いす固定ベルトを外さないでください。車いすは、ウインチベルトと車いす固定ベルトで固定します。ベルトを外すと走行中に車いすが動き、思わぬ事故につながったり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 車いす乗車者もシートベルトはしっかりと着用してください。

シートベルトの着用は、必ず介助の方が行い、正しく着用されていることを確認してください。正しく着用されていないと、衝突時など十分な効果を発揮せず、重大な損害を受けるおそれがあり危険です。

また、車いすによっては自動車の衝突時に強度の確保が困難であったり、車いす乗車者の体格によっては、シートベルトが適切な位置に密着せず、急ブレーキや衝突時に十分な効果を発揮しないおそれがありますので、くれぐれも安全運転を心がけてください。

■タイヤパンク応急修理セットについて

タイヤパンク応急修理セットを使用してタイヤの応急修理をしたときは、スマートアシストが正しく作動しません。スマートアシストを OFF にしてください。詳しくは、別冊「ハイゼットカーゴ／アトレー取扱説明書」をご参照ください。

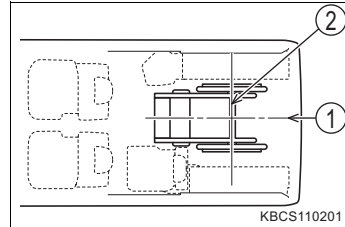
車いすの固定およびシートベルトの着用について

車内に乗車後の車いすの固定およびシートベルトの着用について、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

知識

■ 車いすの停止位置について

- ① 左右位置：車両中央付近と車いすの中央付近を合わせる
- ② 前後位置：フロア後方の停止目安線を目安（車いすの後輪が停止目安線を踏んでいる）に停止させる
車いすの車内への乗り入れかた（→ P. 49）



警告

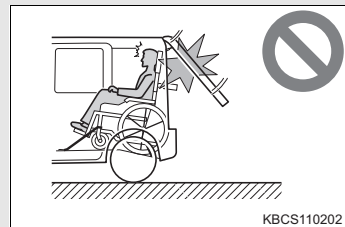
■ 走行前の車いす固定状態の確認

走行前に車いすが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、走行中に車いすが動き出して転倒したり、車いすが損傷するなど重大な事故につながるおそれがあり危険です。

車いすを前後左右にゆすり、ウインチベルトと車いす固定ベルトにたるみがなく、確実に固定されていることを確認してください。（→ P. 61）

■ バックドアを閉めるときは

バックドアが車いす乗車の方および車いすに当たらないことを確認しながら、ゆっくり閉めてください。バックドアが車いす乗車の方の頭に当たるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、車いすおよびバックドアが破損するおそれもあります。

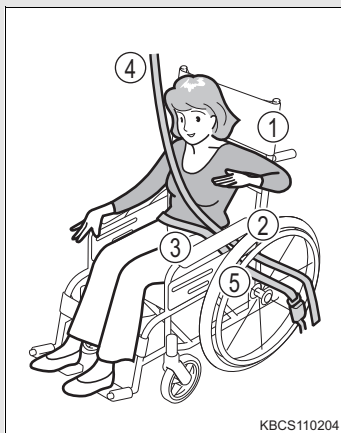


警告**■ 車いす乗車の方のシートベルト着用確認**

走行中は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② アームレストの下に通す
車輪が大きい車いすの場合は、スポークの間も通してください。
- ③ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
腰部ベルトがねじれないようにしてください。
- ④ 肩部ベルトを肩に十分にかける
 - ・ 首にかかったり、肩から外れないようにしてください。
 - ・ 肩部ベルトがねじれないようにしてください。
- ⑤ サイドパネルがある場合はシートベルトをサイドパネルの下側または開口部に通す



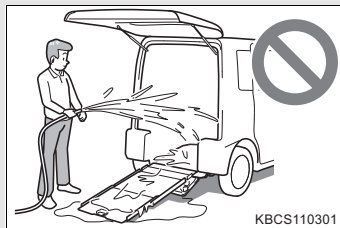
車両火災・故障・損傷を防ぐために

車両火災・故障・損傷を防ぐために、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

⚠ 警告

■ 清掃するときは

車内を水洗いしないでください。
また、飲みものをこぼしたり、雨水などがかからないように注意してください。電気部品に水がかかると、故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
万一、電気部品に水がかかってしまった場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
お手入れ、清掃のしかたは、装置により異なります。正しくお手入れ、清掃をしてください。(→ P. 74 ~ 77)

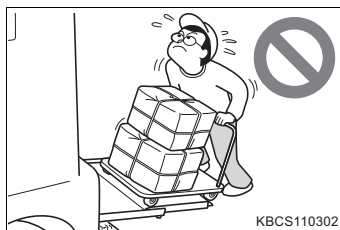


⚠ 注意

■ スロープについて

スロープ先端接地時の耐荷重は 200kg です。

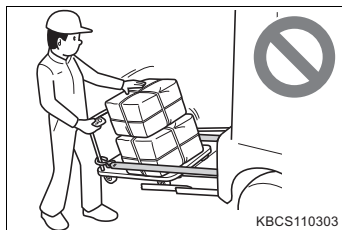
- スロープ先端接地時、スロープに乗り入れる「車いす + 車いす乗車の方 + 手荷物 + 介助の方」の合計重量が 200kg 以下であることを確認してください。
- スロープは車いすの乗降専用です。荷物を載せたり耐荷重を超えるとスロープが損傷するおそれがあります。



⚠ 注意**■ 電動ウインチを使用するときは**

電動ウインチを使用して、車いす以外のものを車内外に出し入れしないでください。

電動ウインチが故障したり、ベルトが切れるおそれがあります。



KBCS110303

シート・室内装備

2

2-1. シート

シートの構成および 標準車との相違点	20
リヤシート	21
チャイルドシート	24

2-2. 室内装備

その他の室内装備	27
----------------	----

シートの構成および標準車との相違点

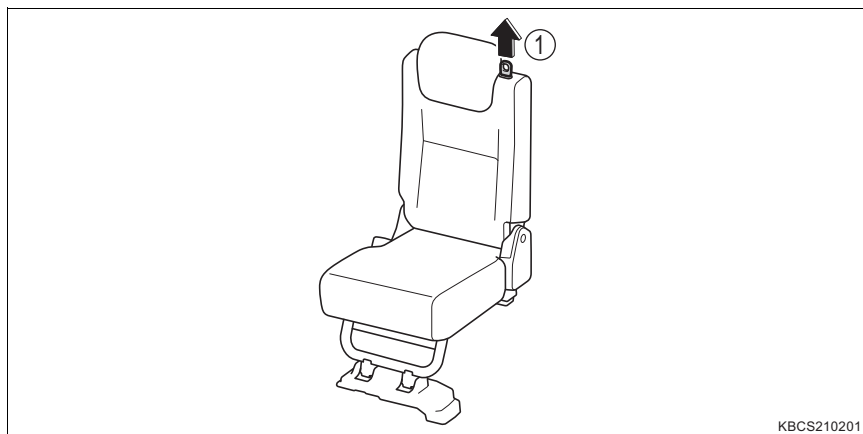
標準車のリヤシートと本車両のリヤシートの相違点をまとめてあります。

この項目に記載されていない使用方法（シートベルトの着用など）は標準車と同様ですので、別冊「ハイゼットカーゴ／アトレイ取扱説明書」を参照してください。

車両タイプ	標準車との相違点
スローパー	運転席は標準車と同様。 助手席は標準車と同様。 後席は専用リヤシート（背もたれ一体可倒式、格納可、取り外し・前後スライド・リクライニング不可）

リヤシート

シートの調整

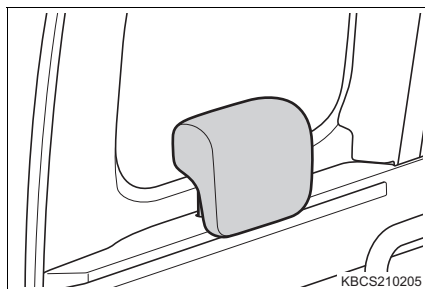


- ① 背もたれ前倒し

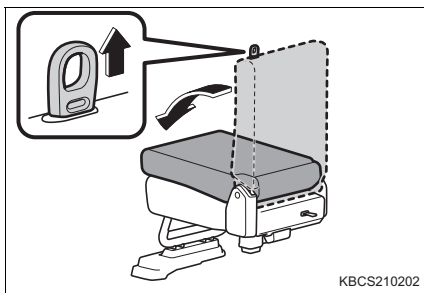
リヤシートの格納のしかた

■ 格納のしかた

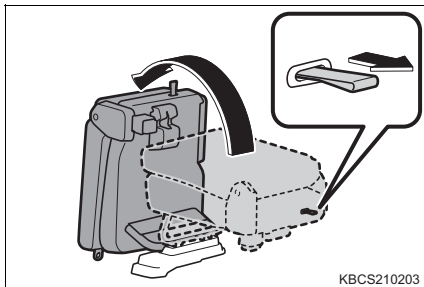
- ① お車を安全で平坦な場所に停止させ、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- ② リヤシートのヘッドレストを取り外す
(→別冊「ハイゼットカーゴ／アトレー取扱説明書」の『ヘッドレスト』)
- ③ ヘッドレストを助手席側デッキサイドの穴に差し込んで収納する



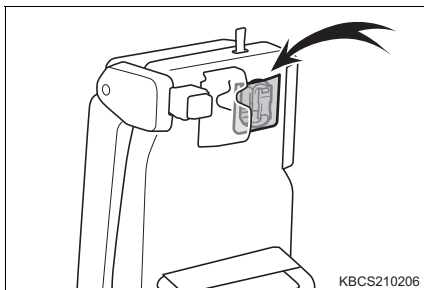
- 4 ハンドルを引いて、背もたれを前に倒す



- 5 シートロック解除ベルトを引きながら、リヤシート全体をゆっくりと引き起こす

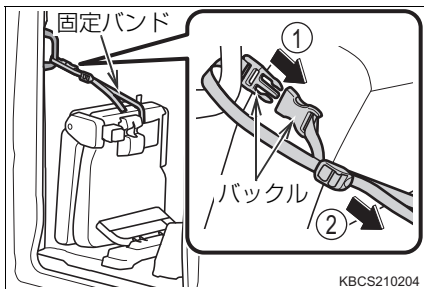


- 6 固定バンドを取り出す



- 7 リヤシートを固定する

- ① リヤシートが倒れないように支えながら、固定バンドを乗降グリップにかけ、バックルを差し込んで固定する
- ② 固定バンドを引いてバンドのたるみを取る



- 8 シートをもとに戻すときは逆の手順で行う

 警告**■ リヤシートの格納・戻す操作をするときは**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にシートの格納・戻す操作をしないでください。
- 安全で平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にしてください。
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意してください。
- お子さまに操作させないでください。
- 同乗者や荷物に当たらないように注意してください。
- 格納したシートの上およびシートを格納したときにできる床面に、人（車いすで乗車する場合を除く）を乗せて走行しないでください。
- 固定バンドがゆるまないように、固定バンドの長さを調整してください。
- 不意にシートが動かないように、シートは必ず手で押さえながら操作してください。
- シートをもとに戻してロックしたあとは、シートを前後左右にゆすり、さらにシートクッションを持ち上げるなどして、シートが確実に固定されていることを確認してください。

チャイルドシート

このお車にチャイルドシートを取り付けないでください。

⚠ 警告

- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 助手席にチャイルドシートを取り付けないでください。事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに図のようなラベルが貼られています。このラベルは、助手席にチャイルドシートを後ろ向きに取り付けてはいけないことを示しています。ただし、このお車の助手席には、チャイルドシートを取り付けることはできないため、前向きであってもチャイルドシートを使用しないでください。



チャイルドシートの適合性について

■ 質量グループについて

UN (ECE) R44※ の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

グループ 0 : 10kg まで

グループ 0⁺ : 13kg まで

グループ I : 9 ~ 18kg

グループ II : 15 ~ 25kg

グループ III : 22 ~ 36kg

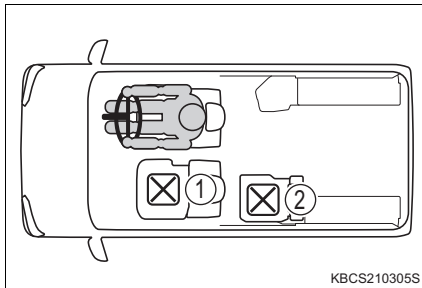
※ UN (ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国際法規です。

シート位置別チャイルドシートの適合性

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性 (→ P. 25) は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



チャイルドシートの取り付けに適していません。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置		
シート位置の番号	①	②
ユニバーサル（汎用）ベルト式に搭載可能な着座位置（有／無）	無	無
ベルト固定の推奨チャイルドシートに適する着座位置（有／無）	無	無
i-Size 着座位置（有／無）	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 / L2）	×	×
搭載可能な後ろ向きチャイルドシートの治具（R1 / R2X / R2 / R3）	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X / F2 / F3）	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 / B3）	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型後ろ向きチャイルドシート
R2	小型後ろ向きチャイルドシート
R2X	小型後ろ向きチャイルドシート
R1	後ろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

その他の室内装備

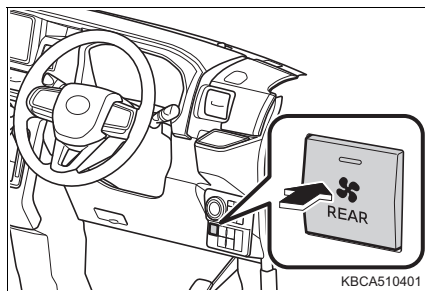
リヤヒーター★

車内の後方部分を暖房することができます。

■ リヤヒーターを使用するときは

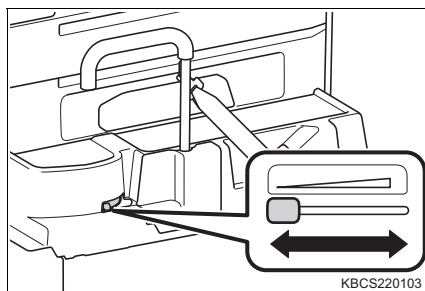
スイッチを押すと、リヤヒーターが作動します。

リヤヒーター作動中は、スイッチの作動表示灯が点灯します。



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節レバーを右に、下げるときには左に操作する



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

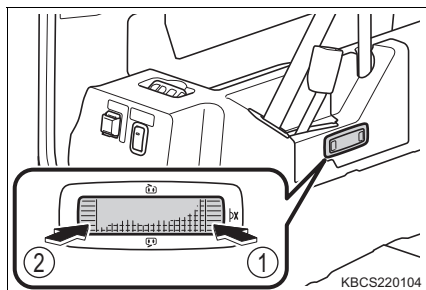
⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中は、必要以上にリヤヒーターを使用しないでください。

フロア照明灯

- ① スイッチを押してランプを消灯する
- ② 中間位置にしてドアポジション（ドア連動）にする
バックドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。



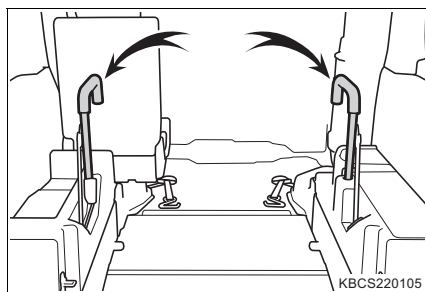
⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

手すり

車両走行中、車いす乗車の方のゆれに対するアシストバーとして使用してください。



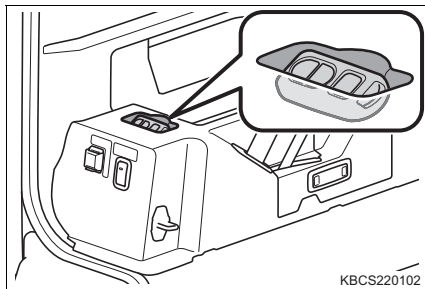
⚠ 注意

■ 手すりについて

故意に引っ張るなど過剰な力をかけないでください。車両を損傷するおそれがあります。

リモコンポケット

電動ウインチを使用しないときは、リモコンを収納してください。



車いすの車内外への乗降

3

3-1. スロープを使用する前に

ご使用前に確認して
いただきたいこと …… 32

3-2. 車いすの車内外への乗降・固定

操作の流れ …… 36

作動条件の確認 …… 40

スロープの展開・格納 …… 42

車いすの車内外への乗降 …… 48

車いすの車内での
固定・解除 …… 60

車いす乗車者用 3 点式
シートベルトの使いかた … 65

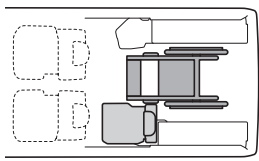
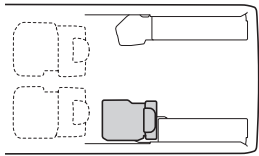
ご使用前に確認していただきたいこと

車いすまたは人を乗せた車いすを、スロープ上を移動してお車に乗り降りさせます。

操作はすべて介助の方が行ってください。

室内レイアウト

車いすの乗車有無により、最大乗車人数が異なります。

車両タイプ	室内レイアウト	乗車人数
スローパー		車いすご利用時 乗車人数 4 名 (3 名+車いす 1 名)
		車いすを ご利用しないとき 乗車人数 3 名

路面について

スロープは水平で平坦な場所での使用が条件になります。

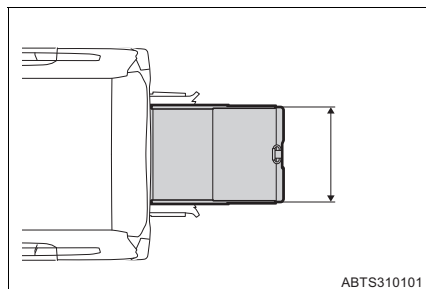
また、車両周辺・下側に突起物などがないことを確認してください。

重量について

- スロープ先端接地時の耐荷重は 200kg です。スロープ先端接地時、スロープに乗り入れる「車いす + 車いす乗車の方 + 手荷物 + 介助の方」の合計重量が 200kg 以下であることを確認してください。
- スロープを前倒しにしたときは、スロープの上に載せる荷物の重量が 110kg 以下であることを確認してください。

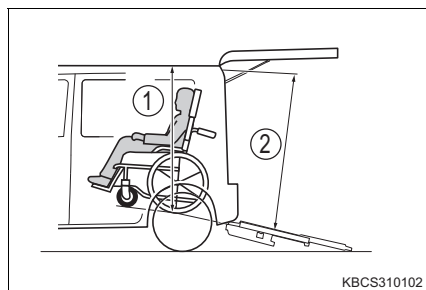
スロープ内幅について

スロープの内幅は 710mm です。



車いす乗車の目安

- ① 有効室内高：1380mm
- ② 開口高：1415mm



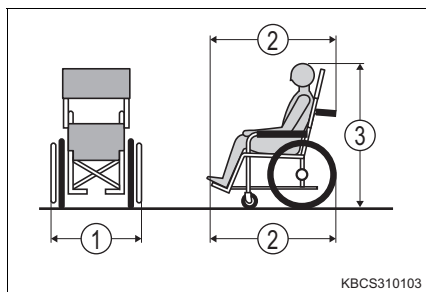
乗車可能な車いすについて

次の寸法を満たしていることを確認してください。車いすの形状によっては次の寸法内であっても乗車できない場合があります。その際はダイハツサービス工場にご相談ください。

- 一部の電動車いすは乗車できません。
- 3 輪の車いすは乗車できません。
- 車いすのフレーム形状によっては、車いす固定ベルトのフックが正しくかけられない場合があります（→ P. 60）。
- 車いすのアームレスト下側にカバーなどがある場合、シートベルトを正しく着用できないことがあります（→ P. 65 ～ 68）。

< 寸法（目安） >

- ① 車いす全幅：715mm 以下
- ② 車いす全長（車いすのフットレスト先端から後端までの距離）：1625mm 以下
- ③ 全高（乗車可能な座高と着座面の高さの合計）：1370mm 以下



 知識

■ 車いす用ヘッドレストについて

車いすはヘッドレストが装着されているものをおすすめします。ヘッドレストが装着されていない場合は、別売の車いす用ヘッドレストを装着し、適切な位置（ヘッドレスト中央が耳の後方になる高さ）に調整してください。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

 警告

■ 乗降するときは

安全で平坦な場所に駐車してください。交通量の多い道路や狭いところ、不整地や傾斜地でスロープを使用すると、思わぬ事故や車両の損傷につながるおそれがあり危険です。

■ 走行するときは

スロープを展開したままお車を移動させないでください。

スロープを展開したままお車を移動させると、スロープの破損やスロープおよびバックドアが車外の人やものに当たるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。（→ P. 14）

■ 車いすを車内に乗り入れたときは

フロントシートの後方スライドや背もたれを後ろ側に倒す操作を急激に行わないでください。

フロントシートの操作を急激に行うと、車いす乗車の方に当たり、けがをすることがあります。車いす乗り入れ後、フロントシートの調整をするときは、車いす乗車の方に当たらないことを確認しながらゆっくりと行ってください。

■ けがを防ぐために

- 取手、ベルト、スローブロック解除ハンドルおよび前倒しレバー以外のスロープ各部は触れないようにしてください。所定位置以外では手足を挟むおそれがあります。
- 積雪、降雪、雨天時は、スロープ表面が滑るおそれがありますので、ご注意ください。

 注意

■ 損傷を防ぐために

スロープの耐荷重 200kg（→ P. 33）を超えないようにしてください。
スロープが損傷するおそれがあります。

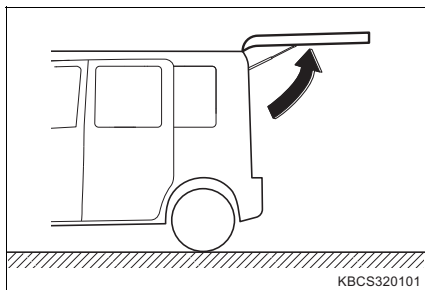
操作の流れ

スロープ・ウインチベルトおよび車いす固定ベルトを使用して車いすを車内外に乗降・固定するときは、次の手順で行います。

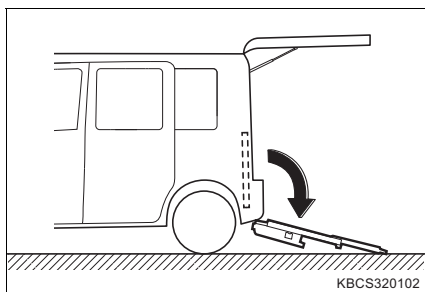
すべての操作は介助の方が行ってください。

車いすを車内に乗り入れ・固定するときは

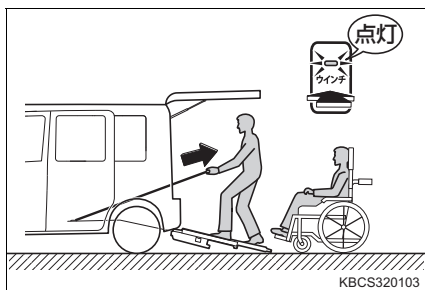
- 1 お車を安全で平坦な場所に停止させ、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 2 バックドアを全開位置まで開ける
(→ P. 42)



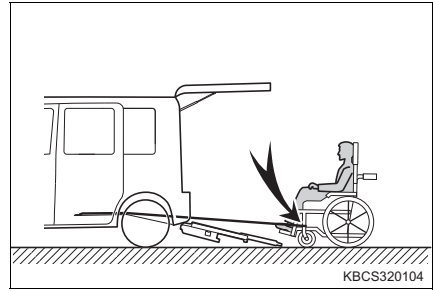
- 3 スロープを展開する (→ P. 42)



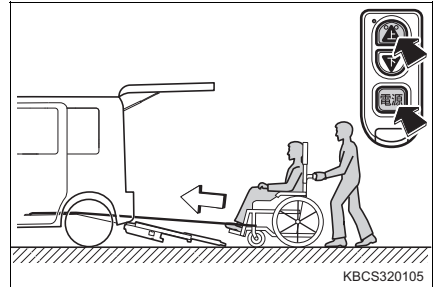
- 4 車いすをスロープに近付けて止め、車いすのブレーキを両輪ともかける
(→ P. 49)
- 5 作動表示灯が点灯するまでベルトフリースイッチを長押しし、ウインチベルトのフックを車いす固定ベルト（左右）のフックから取り外し、ウインチベルトを引き出す
(→ P. 49)



- 6 車いす前側フレームの左右対称位置に、ウインチベルトがねじれないようにフックをかける
(→ P. 49)

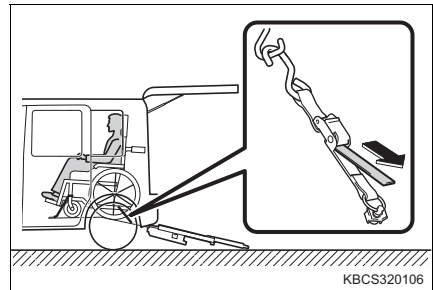


- 7 車いすを車内に乗り入れる
- ① 車いすのブレーキを両輪とも解除する
 - ② ワイヤレスリモコンを操作し、所定の位置まで乗り入れる
(→ P. 50)

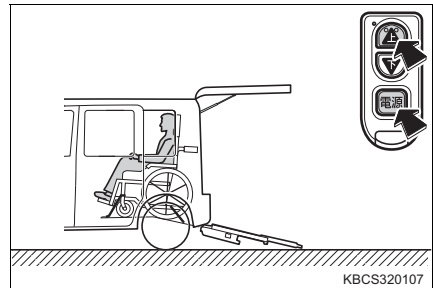


- 8 車いすを車内に固定する

- ① 車いすの後部フレームに車いす固定ベルトのフックをかける (→ P. 60)
- ② 車いすの固定ベルトを引っ張り、ベルトのたるみを取る
(→ P. 60)



- ③ ワイヤレスリモコンを操作してウインチベルトを巻き上げ、車いすを固定する (→ P. 61)

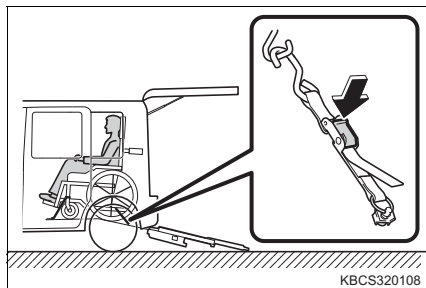


- 9 車いすのブレーキを両輪ともかける
- 10 車いす乗車者用 3 点式シートベルトを着用する (→ P. 65 ~ 68)
- 11 スロープを格納する (→ P. 43)
- 12 バックドアを閉める (→ P. 43)

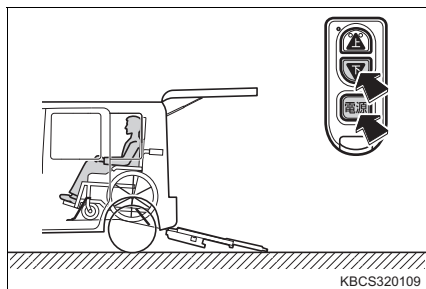
車いすを車外に降ろすときは

- 1 お車を安全で平坦な場所に停止させ、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 2 車いすの両輪にブレーキがかかっていることを確認する
- 3 バックドアを全開位置まで開ける
- 4 スロープを展開する (→ P. 42)
- 5 車いす乗車者用 3 点式シートベルトを外す (→ P. 69)
- 6 車いすの固定を解除する

- ① レバーを押して車いす固定ベルトをゆるめる
- ② 車いすの後部フレームからフックを取り外す (→ P. 62)

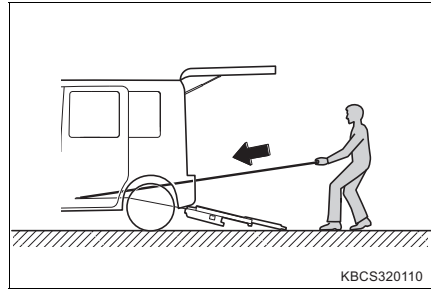


- 7 車いすを車外に降ろす
 - ① 車いすのブレーキを両輪とも解除する
 - ② ワイヤレスリモコンを操作し、車いすを車外に降ろす (→ P. 51)



- 8 車いすのブレーキを両輪ともかける

- 9 ウインチベルトのフックを車いすの前部フレームから取り外し、ベルトがねじれないように巻き取る (→ P. 52)



- 10 ウインチベルトのフックを車いす固定ベルトのフックにかける (→ P. 52)
- 11 スロープを格納する (→ P. 43)
- 12 バックドアを閉める

警告

■ 車両の駐車場所について

- 安全で平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にしてください。(→ P. 11)
交通量の多い道路や狭いところ、不整地や傾斜地でスロープを使用すると、思わぬ事故や車両の損傷につながるおそれがあります。
- 階段や段差を利用して車いすの乗り入れをしないでください。(→ P. 11)
段差を利用すると車いすがスロープから転落したり、スロープが段差から外れて破損するなど、重大な事故につながるおそれがあります。
- 可燃物付近に駐車しないでください。(→ P. 11)
車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると火災になるおそれがあります。

注意

■ 破損を防ぐために

バックドアを閉めるときは、スロープが正しく収納され、左右のロックが確実にかかっていることを確認してください。バックドアおよびスロープが破損するおそれがあります。

作動条件の確認

電動ウインチの作動条件について

- 電動ウインチは、次の作動条件をすべて満たす場合に作動します。
- 作動途中で作動条件を満たさなくなるとブザーが鳴り、電動ウインチの作動が停止します。(→ P. 41)
 - 誤操作（例：ワイヤレスリモコンの操作中にベルトフリースイッチを押す）するとブザーが鳴り、装置の作動が停止します。(→ P. 41)

装置	作動条件
電動ウインチ ※	シフトレバー「P」
	ベルトフリースイッチ「作動表示灯消灯」
	バックドア「開」

※ バッテリーあがり防止のため、エンジンを停止させた状態で電動ウインチを長時間作動させないでください。

知識

■ ブザーについて

動作や状況に応じて次のようにブザーが鳴ります。

ブザー	動作・状況
ピーッ (0.75 秒)	ベルトフリースイッチを長押しし、ベルトフリーモードに移行したとき
ピッ・・・ピッ・・・※	ベルトフリースイッチの作動表示灯点灯時 (ベルトフリーモード時)
ピッピッピッ	シフトレバーを P にしてバックドアを開けてから電動ウインチを 5 分以上操作しなかったとき (省電力モード移行時)

※ 何も操作しない状態が 2 分以上続くと、ブザーが鳴りやみます。(作動表示灯も消灯します)

■ 警告時のブザーについて

動作や状況に応じて次のようにブザーが鳴ります。

ブザー		動作・状況
警告時	ピー・・・	電動ウインチの作動中、シフトレバーを P 以外に動かしたとき
		誤操作により作動停止したとき
	ピー (2 秒間)	電動ウインチの作動中、バックドアを閉めて作動停止したとき
		電動ウインチが異常検知 (例：電動ウインチモーターの左右回転数差が大きい) により作動停止したとき
	ピッピッピッ	規定重量 (車いす乗車の方 + 車いすの合計重量が約 120kg) を超えて電動ウインチを使用したとき
		電動ウインチ作動時、車いす乗車の方が車内シートなどに当たって負荷を受けたとき
		電動ウインチ上昇作動時の停止位置で負荷が増大したとき

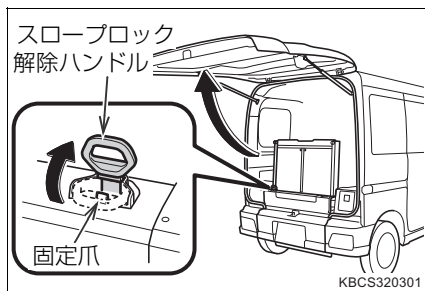
スロープの展開・格納

操作前の確認事項

お車を安全で平坦な場所に停止させ、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにしてください。

スロープの展開のしかた

- ① バックドアを全開にしたあと、スロープロック解除ハンドルを起こす
スロープロック解除ハンドルを固定爪から外してください。

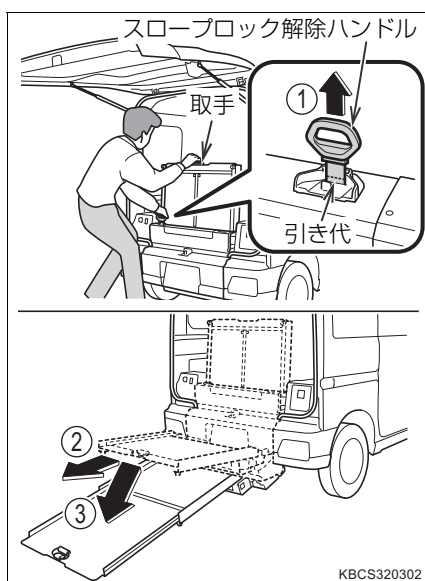


- ② スロープを展開する

- ① スロープを手で支えながら、スロープロック解除ハンドルを引き代（図の破線）が見えるまで引き、スロープのロックを解除する

・スロープのロックが解除されたら、ハンドルから手を離してください。

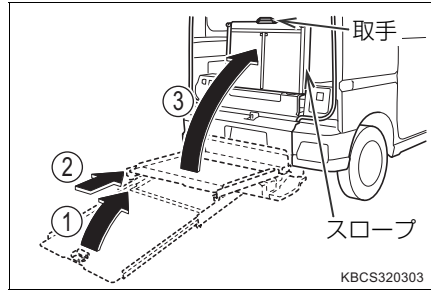
- ② スロープ先端の取手をしっかり持って、スロープを車外へゆっくり引き出す
③ スロープをいっぱいまで引き出したら、静かに接地させる



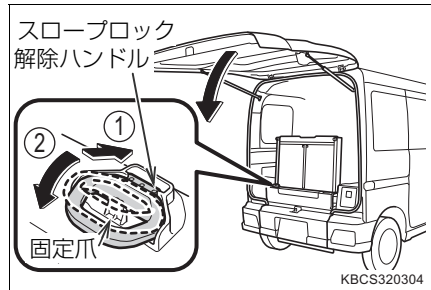
スロープの格納のしかた

1 スロープを格納する

- ① スロープ先端の取手をしっかり持って、スロープをゆっくり持ち上げる
- ② スロープをいっぱいまでゆっくり押し込む
- ③ スロープをゆっくり立てて格納する
 - ・ “カチッ” と音がするまで押し込み、確実にロックさせます。
 - ・ スロープ先端の取手を持って前後左右にゆすり、確実にロックしていることを確認します。



- ### 2 スロープロック解除ハンドルを収納後、バックドアを閉める
- スロープロック解除ハンドルは、固定爪にかけて収納してください。



スロープ前倒し機構

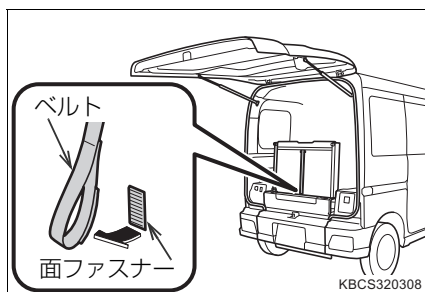
スロープを使用しないときは、スロープを前倒しにすることができます。

■ スロープの前倒し・起こす操作をする前に

- 1 お車を安全で平坦な場所に停止させ、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 2 スロープを格納する（→ P. 43）
格納後、次のことを確認します。
 - ・ スロープ先端の取手を持って前後左右にゆすり、確実にロックしていること
 - ・ スロープがいっぱいまで格納されていること

■ スロープの前倒しのしかた

- 1 面ファスナーからスロープのベルトを取り外す



- 2 左手でベルトを持ちながら、右手で前倒しレバーを引く



- 3 ベルトをしっかり持ち、スロープをゆっくりと前方に倒す

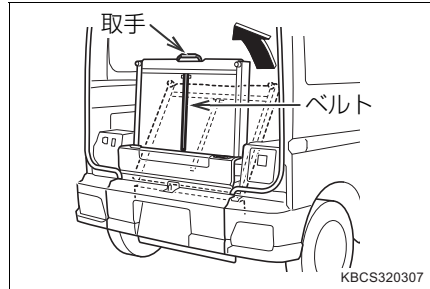


- 4 ベルトを面ファスナーに貼り付け、もとに戻す

■ スロープの起こしかた

面ファスナーからベルトを取り外し、ベルトを持ち、スロープを手前に起こす

- “カチッ” と音がするまで起こし、確実にロックさせます。
- スロープ先端の取手を持って前後左右にゆすり、確実にロックしていることを確認します。
- 操作後は、ベルトを面ファスナーに貼り付け、もとに戻します。



知識

■ スロープについて

スロープ引き出し部のレールをときどき点検し、石などの異物がつまっていないことを確認してください。異物がつまると、スロープの引き出し・格納ができなくなります。スロープの引き出し・格納がしづらくなったときは、スロープの清掃をしてください。(→ P. 74)

警告

■ スロープを使用するときは

- スロープ展開後、スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。

段差やスロープ下部にものが当たるなどにより、スロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏み外して転倒したり、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。

- スロープを展開したままお車を移動させないでください。

スロープを展開したままお車を移動させると、スロープの破損やスロープおよびバックドアが車外の人やものに当たるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スロープを操作するときは

- スロープのロックを解除するときは、必ず片方の手でスロープ先端の取手を持ってください。

スロープ先端の取手を持たずにスロープのロックを解除すると、スロープが不意に倒れ、けがをするおそれがあります。

！ 警告

- スロープの引き出し・格納をするときは、必ずスロープ先端の取手を持って操作してください。
スロープ先端の取手以外の場所を持って操作すると、格納部やレール部で手を挟むなど、けがをするおそれがあります。
- スロープの引き出し・格納途中で絶対にスロープ先端の取手から手を離さないでください。
スロープが落下し、足に当たってけがをしたり、スロープが損傷するおそれがあります。
- スロープの引き出し・格納をするときは、足元に注意しながら行ってください。スロープと地面の間で足を挟んだり、足がスロープに当たってけがをするおそれがあります。また、つまずいて転倒するおそれがあります。
- スロープを引き出すときは、いっぱいまで引き出してください。
いっぱいまで引き出さずに使用すると、スロープが急角度になって乗降が困難になったり、路面によっては乗降時スライド部分が動き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スロープを展開した状態やスロープの展開・格納中にスロープ前倒しレバーを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、スロープの変形や、地面との接触によるバンパー傷付きの原因となります。

■スロープの前倒し・起こす操作をするときは

- スロープを前倒しにするときは、坂道や傾斜面を避け、平坦な場所で行ってください。
- スロープを前倒しにするときは、スロープを倒す方向に人やものがないことを確認してください。
スロープ前倒し時、スロープが人に当たってけがをしたり、ものに当たってスロープやものが破損するおそれがあります。
- スロープを前倒し・起こすときは、必ずスロープのベルトを持って、行ってください。スロープ両端のレール部などを持つと、手や指を挟むなど、けがをするおそれがあります。
- スロープを起こしたあとは、左右のロックが確実にかかっていることを確認してください。
- スロープを前倒しから展開するときは、一度起こしてスロープをロックさせたあと、展開操作してください。
- スロープを前倒し・起こしている途中でスロープロック解除ハンドルを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ 故障・損傷・破損を防ぐために**

- スロープを格納したときは、スロープ先端の取手を持って前後左右にゆすり、確実にロックしていることを確認してください。
確実にロックしていないと、走行中に異音が発生したり、バックドアに当たり損傷するおそれがあります。
- スロープのロックが解除されたら、ハンドルから手を離してください。
ハンドルに強い力が加わると故障するおそれがあります。
- スロープ前倒し時、スロープ面上の金具の上に荷物を載せないでください。
荷物を破損させるおそれがあります。

車いすの車内外への乗降

電動ウインチを使用して、車いすを車内外に乗降します。

操作前の確認事項

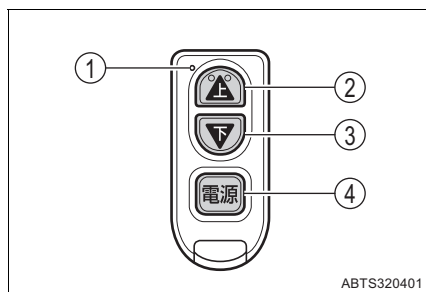
電動ウインチの作動条件を確認してください。(→ P. 40)

ワイヤレスリモコン

ワイヤレスリモコンでウインチベルトの引き出し・巻き上げ操作ができます。

■ 各部の名称

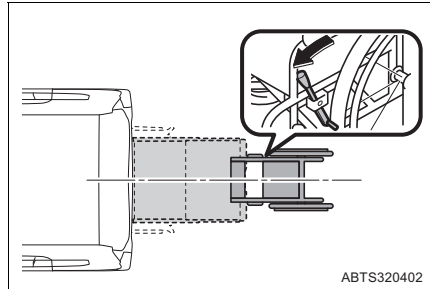
- ① 動作表示 LED
- ② 上昇スイッチ
- ③ 下降スイッチ
- ④ 電源スイッチ



車いすの車内への乗り入れかた

- 1 車いすをスロープの手前で停止し、車いすのブレーキを両輪ともかける

車いすの中央付近とスロープの中央付近を合わせます。

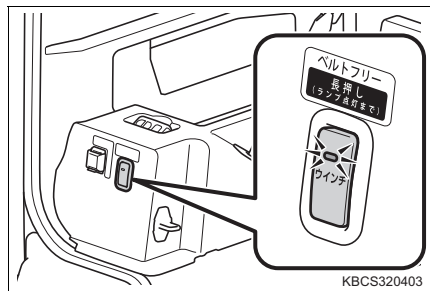


ABTS320402

- 2 ベルトフリースイッチを作動表示灯が点灯するまで長押しする

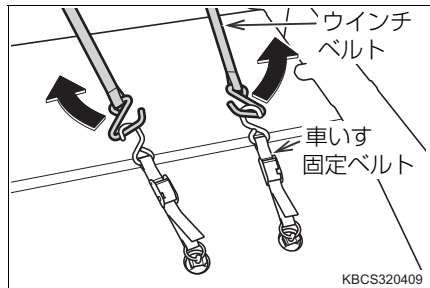
ウインチベルトのロックが解除され、ベルトフリーモードに移行します。

ベルトフリーモード中（約 2 分間）はブザーが鳴ります。



KBCS320403

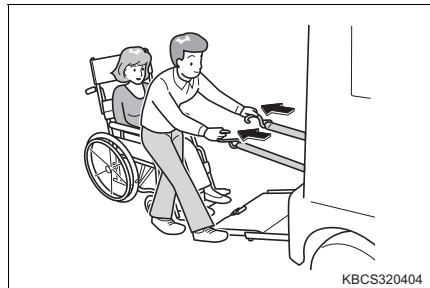
- 3 ウインチベルトのフックを車いす固定ベルトのフックから取り外す



KBCS320409

- 4 ウインチベルトのフックを持ち、手動でベルトを引き出しながら、車いすに近付く

ベルトがねじれないように引き出します。



KBCS320404

- 5 ウインチベルトにねじれがない状態で、車いすの前部フレームのいちばん下の接合部にフックをかける

- ⑥ スロープが確実に接地していることを確認し、車いすのブレーキを両輪とも解除する

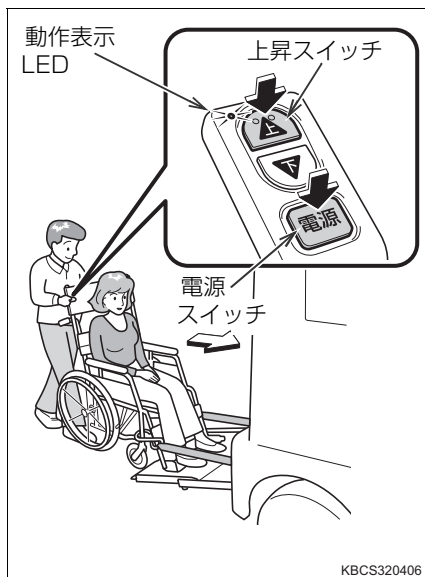
- ⑦ ウインチベルトを巻き取りながら、車いすを車内に乗り入れる

- ① ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押して、ウインチベルトをロックし、動作表示 LED が赤色点灯中（6 秒以内）に上昇スイッチを押し続ける

動作表示 LED が緑色点滅に変わり、ウインチベルトが巻き取られます。

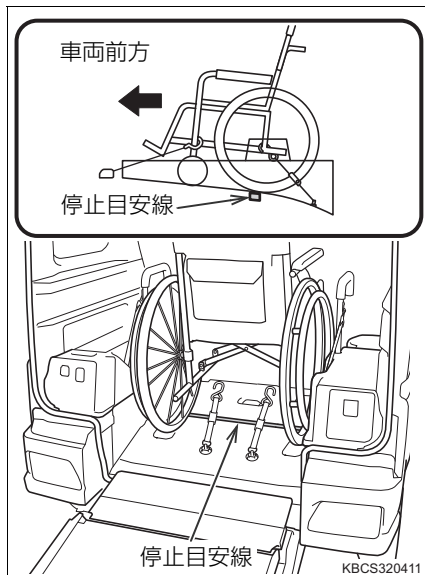
上昇スイッチを押すとベルトフリーモードは解除され、後退防止機能が作動します。

- ② 車両中央付近と車いすの中央付近を合わせた位置に乗り入れる



- ⑧ 車いすの後輪がフロア後方にある停止目安線の位置で、ワイヤレスリモコンの上昇スイッチから指を離す

- ・ 動作表示 LED が消灯し、ウインチベルトの巻き取りが停止します。
- ・ 車いすの後方にスペースが確保されていることを確認してください。



以上で車いすの車内の乗り入れは完了です。次に車いすを車内に固定します。(→ P. 60)

車いすの車外への降ろしかた

1 操作前に次の状態を確認する

- 車いすにブレーキがかかっていること
- 車いす乗車者用 3 点式シートベルトが外されていること (→ P. 69)
- 車いす固定ベルトが車いすから取り外されていること (→ P. 62)

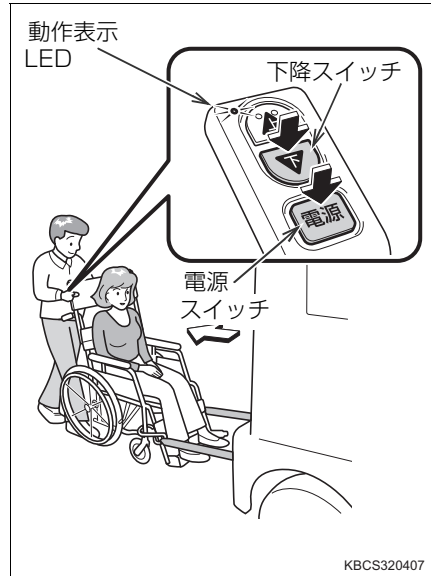
2 車いすのブレーキを両輪とも解除する

3 ウインチベルトを引き出ししながら、車いすを車外に降ろす

① ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中 (6 秒以内) に下降スイッチを押し続ける

- 動作表示 LED が緑色点滅に変わり、ウインチベルトが引き出されます。
- ウインチベルトが引き出せないときは、「ウインチベルトが引き出せないときは」を参照してください。(→ P. 54)

② 車いすのハンドルをしっかり持ち、車いすをスロープ外まで降ろしたら、スイッチから手を離す

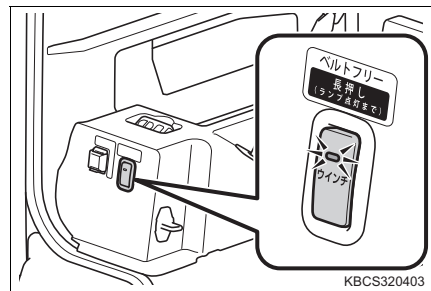


4 車いすのブレーキを両輪ともかける

5 ベルトフリースwitchを作動表示灯が点灯するまで長押しする

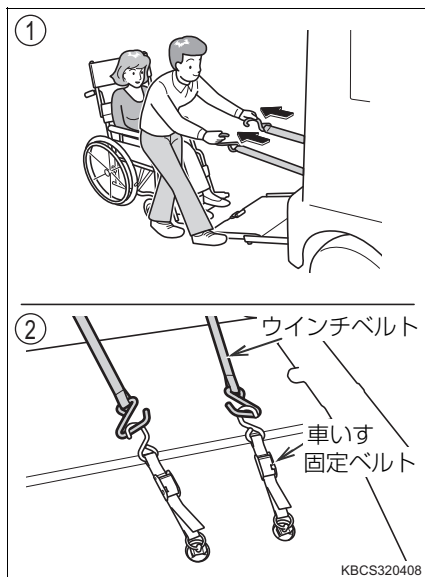
ウインチベルトのロックが解除され、ベルトフリーモードに移行します。

ベルトフリーモード中 (約 2 分間) はブザーが鳴ります。



- ⑥ ウインチベルトを車いすから取り外し、車いす固定ベルトのフックにかける

- ① 左右のウインチベルトを少し引いてフックを車いすから取り外したあと、ウインチベルトを持ち、ねじれないように巻き取る
- ② 左右のウインチベルトのフックを車いす固定ベルトのフックにかける



KBCS320408

- ⑦ スロープを格納し、バックドアを閉める

知識

■ ベルトフリースイッチについて

ベルトフリースイッチを操作後、何も操作しない状態が約 2 分以上続くと、スイッチ OFF 状態（作動表示灯消灯・ブザー停止）に切り替わります。

■ ウインチベルトについて

- ウインチベルトがねじれていないことを確認してください。ベルトがねじれていると巻き取り不良になり、車いすを完全に車内に入れることができません。
- 電動ウインチを使用する前にベルトの点検をし、ベルトにほつれ・すり切れができたり、正常に作動しなくなったときは、ダイハツサービス工場で交換してください。
- ベルトが汚れるとベルトの戻りが悪くなることがあります。ベルトの戻りが悪くなったときは、ベルトの清掃をしてください。（→ P. 76）

■ 電動ウインチの作動モードについて

- 電動ウインチはベルトフリーモード以外るとき、常に後退防止機能が作動します。
- ベルトフリーモード時（作動表示灯点灯）であっても、ワイヤレスリモコンを操作すると後退防止機能が作動し（作動表示灯消灯）、電動ウインチが作動します。

 知識**■ ワイヤレスリモコンの作動条件について**

- ワイヤレスリモコンは、周囲の状況により作動可能範囲が変わることがあります。
- 周囲の電波状態により、下降スイッチまたは上昇スイッチを押しても電動ウインチが作動しなくなることがあります。その際はワイヤレスリモコンでの操作位置を変えて操作してください。
その際、スイッチは押し直してください。押し続けたまま操作位置を変えても電動ウインチは作動しません。

■ ワイヤレスリモコンについて

- 電源スイッチを押してから 6 秒以内（動作表示 LED が赤色点灯中）に下降スイッチまたは上昇スイッチを押さないと、自動的に電源が切れます。（動作表示 LED 消灯）
- 下降スイッチまたは上昇スイッチを押すと、電源はスイッチから指を離れた時点より 6 秒延長します。
- 電動ウインチ作動中に下降スイッチまたは上昇スイッチから指を離すと、電動ウインチの作動は停止します。
- 電動ウインチは下降スイッチまたは上昇スイッチを押している間、作動します。断続的にスイッチを押しても電動ウインチは作動しません。
- 複数のスイッチを同時に押すと、電動ウインチは作動しません。
- ワイヤレスリモコンは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。
 - ・ 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
 - ・ 必ず日本国内で使用してください。
- ワイヤレスリモコンを交換したときは、ID コードを登録する必要があります。登録はダイハツサービス工場にお申し付けください。

■ ワイヤレスリモコンの電池について

- 電池寿命は約 1 年間です。（1 回の操作時間を 30 秒、1 日の操作回数を 20 回で計算した場合）ただし、電池寿命は実際の使用状況によって変わります。
- ワイヤレスリモコンを操作しても電動ウインチが作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、または動作表示 LED が点灯しなくなったり、点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。電池はお客様ご自身で交換できます。（→ P. 97）

 知識**■ 航空機に乗るときは**

航空機にワイヤレスリモコンを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をおよぼすおそれがあります。

■ ウインチベルトが引き出せないときは

- ウインチベルトを手動で引き出す際、ベルトフリースwitchを長押しし、ベルトフリーモードにしても、まれにウインチベルトが引き出せないことがあります。

このときはウインチベルトに力が加わっていない状態で再度スイッチを押し、ベルトフリーモードにするとベルトが引き出せます。

再度操作してもウインチベルトが引き出せないときはダイハツサービス工場に連絡してください。

- 車いすを車内に乗り入れた際、車いすの後輪を持ち上げるなどにより、ウインチベルトが過剰に巻き取られた場合、車いすを車外に降ろすときにウインチベルトが引き出せなくなることがあります。

このときは車いすを少し前に出す、または車いすの後輪を少し持ち上げるなど、ウインチベルトを少しゆるめた状態でワイヤレスリモコンの電源スイッチを押してから下降スイッチを押すと、ウインチベルトが引き出せます。

 警告**■ ハイゼット／アトレー スローパーの操作をするときは**

- 操作はすべて介助の方が安全に十分注意しながら行ってください。

- ・ 車いす乗車の方が操作すると、手足を挟まれたり、車いすがスロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ・ 急に車いすの乗降を行うと、車いすが転倒するおそれがあり危険です。（車いすを車外に降ろすときは特にご注意ください。）
- ・ 車内を移動するときは、車いす乗車の方の手足や腕がシートなどに挟まれないように注意してください。

- 風の強い場所や風雨の強い日、または降雨時や降雪時など悪天候のときはスロープが滑りやすいので注意してください。

- スロープ表面がぬれている状態で車いすをスロープに乗り入れないでください。

スロープ表面がぬれていると滑りやすくなります。スロープ表面の水分をふき取ってから使用してください。

雨天時など、完全に水分をふき取れない場合は、足元に十分注意してください。

警告

- 介助の方は、車いすに乗車されている方の手や足が車いすの内側にあることを確認してください。
車内の部品で手や足を挟み、けがをするおそれがあります。
- 介助の方が車いすから離れるとき（ベルトのフックの脱着時やベルトフリースイッチ操作時など）は、車いすのブレーキを両輪とも確実にかけてください。車いすのブレーキを両輪ともかけずに車いすから離れると、車いすが自重で後退するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 車いすの車内外への乗降操作をするときは

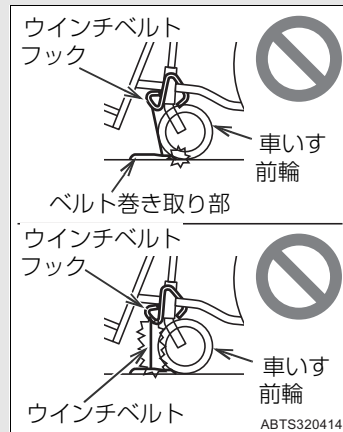
- スロープに乗降するときは足元に注意し、スロープ中央を通ってください。
中央以外を通ると足を踏み外し、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
傾斜したスロープは車いすがバランスをくずしやすく、脱輪や転倒のおそれがあります。車いすの動きに注意し、ゆっくり乗降してください。
- スロープ展開後、スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。
段差やスロープ下部にものが当たるなどにより、スロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏み外して転倒したり、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれがあります。
- スロープに車いすを載せたときは、不要なスイッチ類の操作をしないでください。
装置の不意な作動により、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ ベルトフリースイッチを長押しし、作動表示灯が点灯（ベルトフリーモードに移行）すると、後退防止機能が解除され、車いすがスロープから滑り落ちるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車内外に乗降するときは、バックドア・ドア開口部および天井に頭をぶつけないように注意してください。
スロープに車いすを乗り入れるときや、乗り入れ後に車外へ出る（戻る）とき、頭上の注意がおろそかになりやすいので、バックドア端部やバックドア開口部に注意してください。
- 車いすを勢いよく押し込まないでください。
車いす乗車の方が車内の部品に当たり、けがをするおそれがあります。

警告

- 車いすを車内に乗り入れるときは、車両中央付近と車いすの中央付近を合わせた位置に乗り入れてください。
中央付近に乗り入れないと、ウインチベルトが車いす乗車の方の足や車いすのフットレストに引っかかる場合があります。そのまま車いすを固定すると、車いす乗車の方がけがをしたり、車いすの固定が不十分になり、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 電動ウインチを使用して車いすを車内外に乗降するときは、介助の方は必ず車いすの後ろで操作し、車いすのハンドルをしっかり支えながら乗り入れてください。
車いすを車内に乗り入れるとき、車いすのハンドルをしっかり支えていないと、車いすの前輪が停止後、前のめりになることがあります。お子さまや体重の軽い方が車いすに乗車されているときは、特に注意してください。（電動ウインチは車いすの乗降を補助するためのものであり、自動で乗降するための装置ではありません）
- 車いすは必ず所定の位置まで乗り入れてください。（→ P. 50）
車いすが所定の位置まで乗り入れていないと、正しく固定できない場合があります。
 - ・ 乗り入れ位置が前過ぎると、車いす乗車の方の足がリヤシートに当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・ 乗り入れ位置が後ろ過ぎると、車いす後輪がスロープに当たり、スロープを完全に格納することができません。そのままバックドアを閉めると、スロープとバックドアが傷付くおそれがあります。
- 車いすを所定の位置で固定後、スイッチを押し続けしないでください。電動ウインチが故障したり、車いす乗車の方が車両に当たるなどして思わぬけがをするおそれがあります。
- 車いすを車内に乗り入れたときは、電動ウインチのフックを車いすの前部フレームから取り外さないでください。
電動ウインチは車いす前側の固定装置として使用します。電動ウインチのフックを車いすの前部フレームから取り外した状態では車いすが固定されず、走行中に車いすが動き出し、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 電動ウインチのフックを車いすから取り外すときは、手に持ってゆっくりと行ってください。
フックから急に手を離すと、ウインチベルトが勢いよく巻き取られ、けがをするおそれがあります。
- 車いすの自走での乗降は絶対に行わないでください。

警告

- ハイゼット／アトレー スローパーに適した車いすを使用してください。不適切な車いすで乗車された場合、思わぬ事故につながったり、重大な傷害を受けたりするおそれがあります。
- 車両への乗降は、必ずウインチ操作で乗降してください。手足での押し上げはスロープの傾斜により、車いすの転倒のおそれがあり危険です。
やむを得ずワイヤレスリモコンの電池が消耗したときなど緊急時に乗降するときは十分に注意して、必ず介助の方が乗降させてください。
- 次の操作を行うと、車いすが車内またはスロープの途中で急に下がって転倒したり、介助の方が支えきれず思わぬ事故につながったり、重大な傷害におよぶおそれがあり危険です。
 - ・ 車いす乗降中にベルトフリースイッチを長押しする
 - ・ ウインチベルトのロックが解除されている状態で、手足の押し上げ乗降をする
- 車いすで乗降する前に、車いす乗車スペースに乗降の妨げになるものがないかを確認し、必ず収納してから乗降操作をしてください。
- 車いすを乗車させるときは、車いす乗車の方のつま先が車両などに接触しないように注意してください。
- 次の状態では車いすがしっかり固定できず、走行中に車いすが動き危険です。
 - ・ 車いすの前輪がベルト巻き取り部に乗り上げている
 - ・ ウインチベルトが真上に引っ張られている



警告**■ 電動ウインチを使用するときは**

- 電動ウインチの耐荷重は 120kg です。

電動ウインチは車いすの車内外への乗降専用です。電動ウインチを使用して人やものを引き上げないでください。

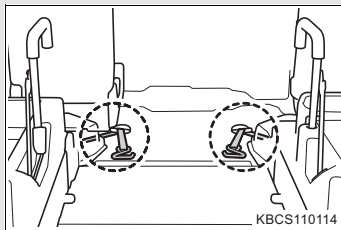
電動ウインチの事故やベルトの損傷につながったり、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 電動ウインチ作動後、ウインチベルトやウインチベルト巻き取り部に触れないでください。

ベルトの巻き取り不良やベルト巻き取り部に手などを巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



: ベルト巻き取り部



- ウインチベルトのフックは、車いすフレームのフロントパイプとベースパイプの交差部に確実に取り付けてください。
- ウインチベルトが車いすの足置きなどに引っかからないように取り付けてください。

■ 電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

 注意**■故障・損傷を防ぐために**

- ウインチベルトがねじれていないことを確認してください。
ウインチベルトがねじれていると巻き取り不良になり、車いすを完全に車内に乗り入れることができません。
- 断続的にワイヤレスリモコンの下降スイッチまたは上昇スイッチを押さないでください。
故障の原因になります。(断続的にスイッチを押しても電動ウインチは作動しません)
- ウインチベルトの巻き取りができない状態（ベルトが車内のものに引っかかって動かない、ベルトがねじれて巻き取れない場合など）のときは、ワイヤレスリモコンの上昇スイッチを押し続けしないでください。故障の原因になります。
ウインチベルトの巻き取りができないときは、ワイヤレスリモコンの下降スイッチを押し続けて少しウインチベルトをゆるめてから、障害物やウインチベルトのねじれなどを取り除き、再度ワイヤレスリモコンの電源を入れ、上昇スイッチを押し続けてください。
- ワイヤレスリモコンは電子部品のため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ ダッシュボードの上など、直射日光の当たる場所および高温になるところに置かない
 - ・ 分解しない
 - ・ 落とす、踏むなどの強い衝撃を与えない
 - ・ 飲料水などをこぼしたり、水たまりなど、水中に落下させない
(防滴構造ですが、できるだけ水にぬらさないでください)
- ワイヤレスリモコンの清掃にシンナー・ガソリン・ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。
表面が変形するおそれがあります。清掃するときは、水またはぬるま湯を布などに含ませ、固くしぼってからふいてください。

車いすの車内での固定・解除

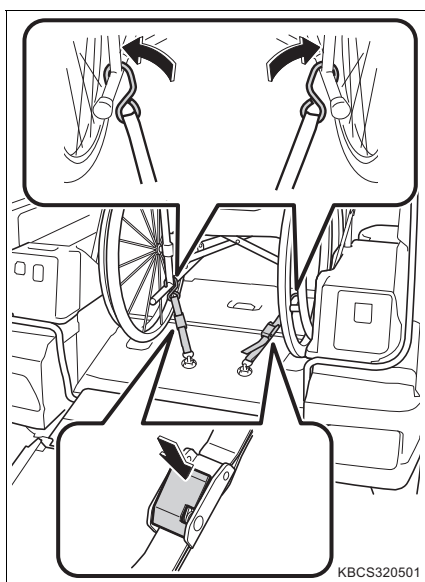
車いすの後部に車いす固定ベルトをかけ、ウインチベルトを巻き上げることで、車いすを車両に固定します。

操作前の確認事項

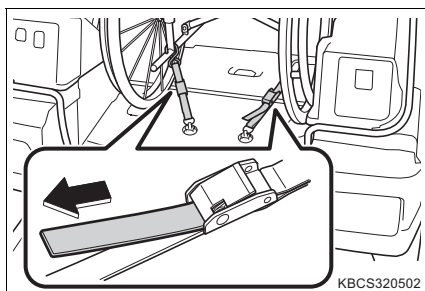
車いすが所定の位置まで乗り入れていることを確認してください。
(→ P. 50)

車いすの固定のしかた

- 1 車いす固定ベルトのレバーを押し
ながらベルトを引き出し、フック
(左右) を車いすの後部フレーム
(リヤパイプとベースパイプの交
差部) にかける
レバーを押している間のみ、ベルトを引
き出すことができます。



- 2 車いす固定ベルトを引っ張り、ベ
ルトのたるみを取る



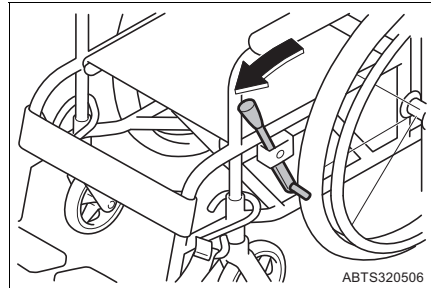
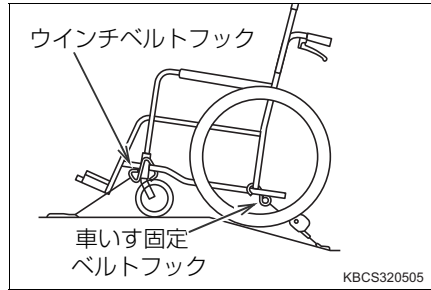
- 3 ウインチベルトを巻き上げ、車いすを固定する

- ① ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中（6 秒以内）に上昇スイッチを押し続ける

動作表示 LED が緑色点滅に変わり、ウインチベルトが巻き取られます。“ピッピッピッ”とブザーが鳴るまで上昇スイッチを押し続けてください。

- ② 車いすが車両前方に動いて固定されたら、上昇スイッチから指を離す

- 4 車いすのブレーキを両輪ともかける

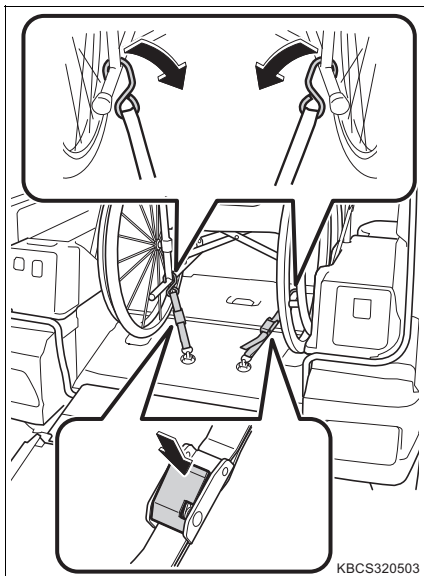


- 5 車いすのハンドルを握り、車いすを前後左右にゆすり、ウインチベルトと車いす固定ベルトにたるみがなく車いすが確実に固定されていることを確認する
- 6 スロープを格納し、バックドアを閉める

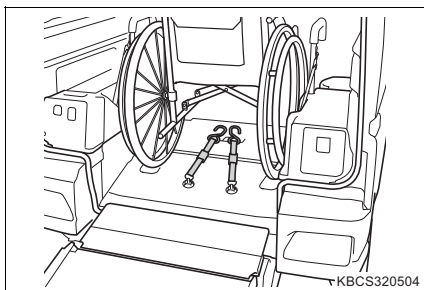
以上で車いすの固定は完了です。次に車いす用シートベルトを着用します。（→ P. 66）

車いすの固定解除のしかた

- 1 車いすにブレーキがかかっていることを確認する
- 2 車いす乗車者用 3 点式シートベルトを外す (→ P. 69)
- 3 車いす固定ベルトのレバーを押し
ながら車いす固定ベルトを少し引
き出し、フック (左右) を車いす
の後部フレームから取り外す



- 4 取り外した車いす固定ベルトを図
のようにフロア前側中央に置く



知識

■ 車いす固定ベルトについて

- 車いす乗り入れ前に車いす固定ベルトの点検をし、ベルトにほつれ・すり切れができたときは、ダイハツサービス工場で交換してください。
- 車いす固定ベルトが汚れるとベルトの操作がしづらくなることがあります。ベルトの操作がしづらくなったときは、ベルトの清掃をしてください。(→ P. 76)

 警告**■ 車いすの固定をするときは**

- 車いすを固定する前に、ウインチベルトが車いす乗車の方の足や車いすのフットレストに引っかかっていないことを確認してください。
そのまま車いすを固定すると、車いす乗車の方がけがをしたり、車いすの固定が不十分になり、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いす固定ベルトのフックを車いすのフレームに脱着するときは、フックとフレームの間で指などを挟まないようにしてください。
- ウインチベルト巻き上げ時は、車いすが車両前方に動きますので、車いす乗車の方の手足などが車両に接触しないように注意してください。
- 車いすを固定したときは、車いすを前後左右にゆすり、ベルトにたるみがなく、確実に固定されていることを確認してください。
固定が外れると走行中に車いすが動き出し、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 固定を確認しているときに、車いすとフックとの間で手を挟まないように注意してください。
 - ・ ベルトにねじれがないことを確認してください。ベルトがねじれていると十分に固定できない場合があります。
 - ・ 車いすの固定が不十分なときは、車いすの固定位置およびフックを引っかける位置を確認後、車いす固定ベルトのレバーを押し下げ、操作をやり直してください。
 - ・ 車いす固定ベルトが操作できないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 車いす固定ベルトのフックを取り外したときは、必ずフックをフロア中央付近に置いてください。
フロア中央以外の場所にフックを放置したままだと、車いすを車外に降ろすとき、車いすにフックが引っかかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車いす固定ベルト使用中、ベルトが傷付いたりほつれたりした場合やフックに損傷や腐食が発生した場合は、すぐにダイハツサービス工場でのベルトの交換を行ってください。
そのまま使い続けると、走行中に車いすの固定が外れ、車いす乗車の方が転倒するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いす固定ベルト（左右）のフックは、車いすのフレームのリアパイプとベースパイプの交差部に確実に取り付けてください。車いす固定ベルト（左右）のフックが外れると車いすの転倒・脱輪などにつながり大変危険です。
- 車いす固定後は、必ず車いすのブレーキをかけてください。車いすが動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 警告

- ウインチベルトは必ず手で持って巻き取ってください。手を離すとウインチベルトの巻き取り機能により勢いよく戻ってけがをしたり、スロープの損傷やウインチベルトのほつれなどの原因となります。

 注意**■ 故障・損傷などを防ぐために**

車いす固定ベルトのフックを車いすに引っかけるときは、フックのベルトが車いすのフレームの縁などに当たっていないことを確認してください。ベルトが損傷するおそれがあります。

車いす乗車者用 3 点式シートベルトの使いかた

3 点式のシートベルトです。

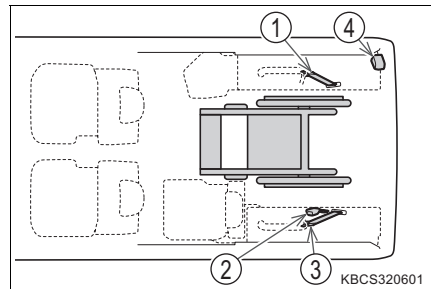
体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で体が前に倒れそうなときには、ベルトが自動的にロックされ体を固定します。

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の方法に従って走行前に必ず着用してください。

シートベルトの着用は介助の方が行ってください

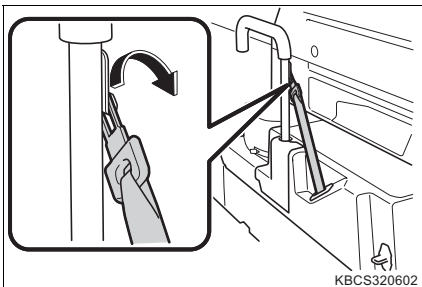
車いす乗車者用 3 点式シートベルトの構成

- ① 腰部ベルト用プレート
- ② 腰部ベルト用バックル
- ③ 肩部ベルト用プレート
- ④ 肩部ベルト用バックル



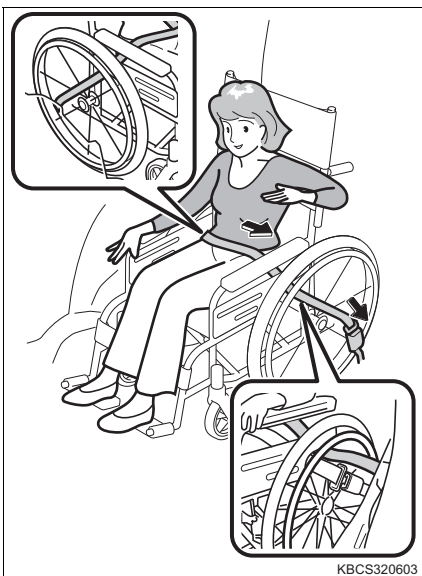
車いす乗車者用 3 点式シートベルトの着用のしかた

- 1 腰部ベルトを右側手すりのシートベルトハンガーから取り外す

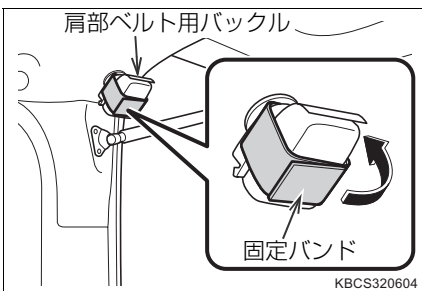


- 2 腰部ベルトを持って引き出しながら、車いすの左右のアームレストの下側を通して装着する

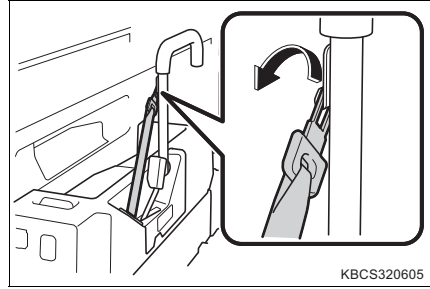
- ベルトにねじれがないことを確認しながら引き出します。
- “カチッ” と音がするまでプレートを保ックルに差し込みます。
- 車輪が大きい車いすの場合は、スポークの間を通してください。
- サイドパネル付き車いすは、サイドパネルの下側または開口部からベルトを通してください。



- 3 固定バンドを外して車両右上の肩部ベルト用バックルを取り出す

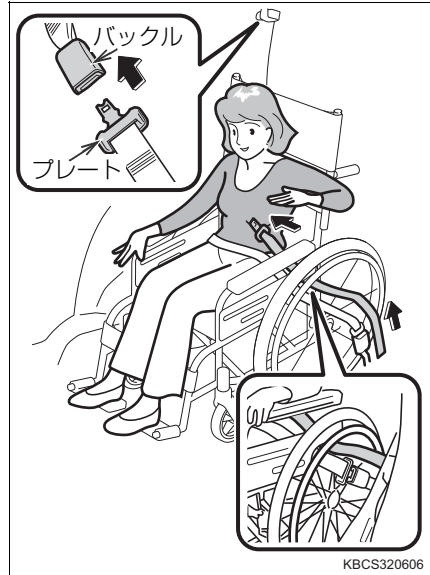


4 肩部ベルトを左側手すりのシートベルトハンガーから取り外す



5 肩部ベルトを持って引き出しながら、アームレストの下側を通して装着する

- ベルトにねじれがないことを確認しながら引き出します。
- “カチッ” と音がするまでプレートを保ックルに差し込みます。
- 車輪が大きい車いすの場合は、左側車輪のスプークの間も通してください。
- サイドパネル付き車いすは、サイドパネルの下側または開口部からベルトを通してください。



■ 正しく着用するには

シートベルトを調整し、次の通りに正しく着用する

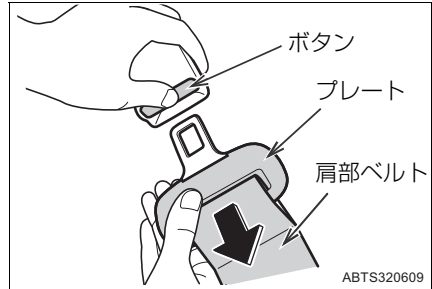
- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② アームレストの下に通す
車輪が大きい車いすの場合は、スポークの間も通してください。
- ③ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
腰部ベルトがねじれないようにしてください。
- ④ 肩部ベルトを肩に十分にかける
 - ・ 首にかかったり、肩から外れないようにしてください。
 - ・ 肩部ベルトがねじれないようにしてください。
- ⑤ サイドパネルがある場合はシートベルトをサイドパネルの下側または開口部に通す



車いす乗車者用 3 点式シートベルトの外しかた

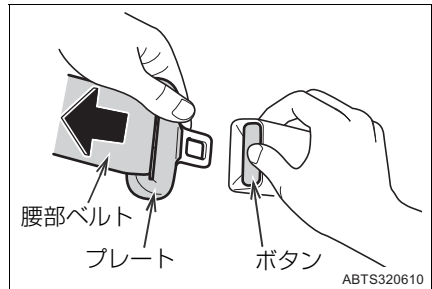
1 肩部ベルトを外す

- ① プレートを手でしっかり持ち、バックルのボタンを押す
- ② ねじれや引っかかりなどがな
いかを確認しながら、ベルトや
プレートに手を添えてゆっくり
ベルトを巻き取る

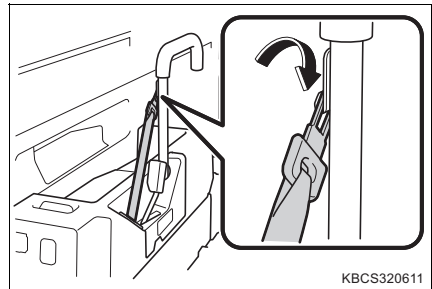


2 腰部ベルトを外す

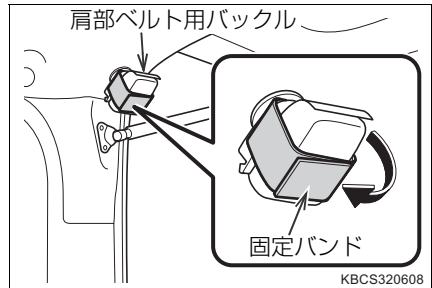
肩部ベルトと同様にします。



3 肩部ベルトと腰部ベルトを手すりのシートベルトハンガーに取り付ける



4 肩部ベルト用バックルを固定バンドで固定する



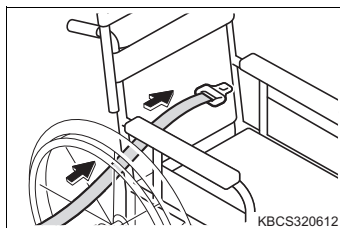
知識

■ シートベルトがロックしたまま引き出せないときは

一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

■ 車いすの側板後部にスペースがある車いすをご使用の場合

右図のように腰部ベルトを通すと、腰骨のより低い位置に腰部ベルトがかけられます。



警告

■ シートベルトを着用するときは

- シートベルトの着用は必ず介助の方が行い、正しく着用されていることを確認してください。

シートベルトは正しく着用しないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 3 点式シートベルトは必ず肩部ベルトと腰部ベルトの両方を着用してください。
- シートベルトを着用するときは、必ず車いすがフロアと確実に固定されていることを確認してください。

車いすの固定が悪いと車いすが動き出し、車いす乗車の方のシートベルトが正しく着用できなくなり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトは必ずアームレストの下側を通してください。また、車輪が大きい車いすの場合はスポークの間、サイドパネルがある場合はパネルの下側または開口部から通してください。

シートベルトがアームレストにかかった状態で着用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車いす乗車者にリヤシートのシートベルトを着用しないでください。衝突したときなどに効果が十分に発揮されません。必ず車いす乗車者用 3 点式シートベルトを着用してください。

 警告**■ シートベルトを外すときは**

プレートバックルから外すときは、必ずプレートを手で持ってからバックルのボタンを押してください。

プレートを持って外さないと、プレートが勢いよく戻り、顔などに当たり、けがをするおそれがあります。

■ シートベルトを着用しないときは

車いす用シートベルトを着用しないときは、必ず肩部ベルト用バックルを固定バンドで固定してください。

肩部ベルト用バックルが確実に固定されていないと、走行中に肩部ベルト用バックルが外れたり、車いす乗降時に肩部ベルト用バックルが頭に当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

スロープの清掃 …………… 74

ベルトの清掃 …………… 76

車いす乗車スペースの清掃 … 77

スロープの清掃

スロープの引き出しレール部に泥や小石、砂などの異物がつまると、スロープの引き出し・格納操作ができなくなります。

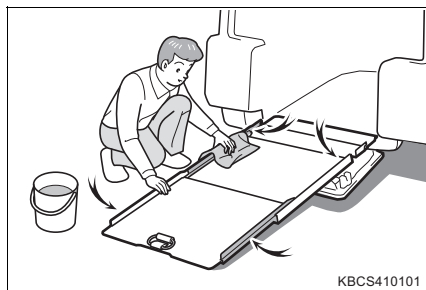
スロープの清掃は、次のように行ってください。

清掃のしかた

- 1 安全で平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにし、エンジンを停止する
- 2 バックドアを全開にする
- 3 スロープを展開する（→ P. 42）
- 4 スロープを清掃する

▶引き出しレール部

- ① 泥や小石、砂などの異物があったらブラシなどを使用して取り除く
- ② 水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る



▶スロープ全体

水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る

スロープを持ち上げた状態でスロープ裏面などを清掃するときは、片方の手でスロープ先端の取手を持ってスロープを持ち上げて、もう片方の手で清掃します。



 警告**■ スロープを清掃するときは**

- スロープの可動部や端部、突起部などを清掃するときは、手や指を挟まないよう、十分注意してください。
- スロープを持ち上げた状態でスロープ裏面などを清掃するときは、必ず片方の手でスロープ先端の取手を持ってスロープを持ち上げてください。スロープ先端の取手以外の部分を持つと、手を挟まれけがをするおそれがあります。

 注意**■ スロープを清掃するときは**

- 金ブラシや金たわしなどを使用しないでください。スロープに傷が付いたり、腐食の原因となるおそれがあります。
- スロープの汚れが著しいときは、中性洗剤の水溶液をやわらかい布に軽く含ませてお使いください。研磨材（コンパウンド）入りの洗剤などを使用するとスロープの表面を損傷させるおそれがあります。

ベルトの清掃

ウインチベルト、車いす固定ベルトおよび車いす用シートベルトが汚れたときは、次のように清掃を行ってください。

清掃のしかた

中性洗剤かぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る

乾くまで使用しないでください。

警告

■ベルトを清掃するときは

- ベルトの清掃にベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤を使用しないでください。
有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤を使用すると、ベルトの性能が低下し、十分な成果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでベルトを使用しないでください。
- ベルトを清掃するときは、フックやプレートをしっかり持ち、ベルトの状態を確認しながら行ってください。
ベルトが不意に巻き取られ、けがをするおそれがあります。

車いす乗車スペースの清掃

車いす乗車スペースが汚れたときは、次のように清掃を行ってください。

清掃のしかた

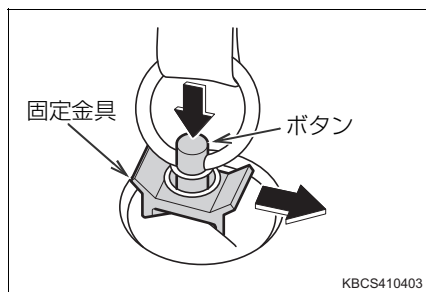
■ 清掃について

車いす乗車スペースが汚れたときは、ほこりや泥などを取り除いてください。

あらかじめ車いす固定ベルトを取り外しておくと、清掃しやすくなります。

■ 車いす固定ベルトの取り外しかた

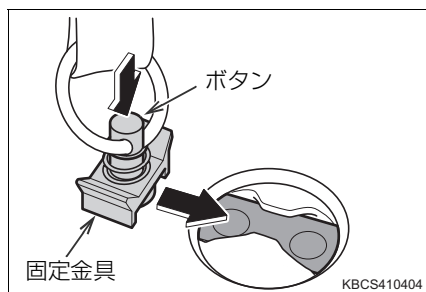
- 1 ボタンを押さえながら固定金具を引き上げ、スライドさせて取り外す



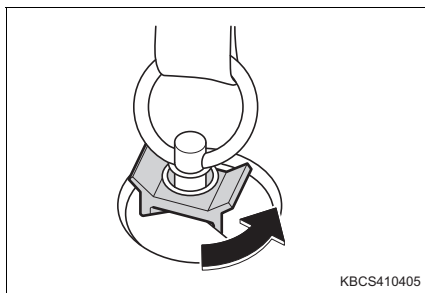
- 2 取り外した車いす固定ベルトをグローブボックスに収納する

■ 車いす固定ベルトの取り付けかた

- 1 車いす固定ベルトをグローブボックスから取り出す
- 2 ボタンを押さえながら固定金具を引き上げ、スライドさせて取り付ける



- 3 固定金具を“カチッ”という音がするまで回し、確実に固定されていることを確認する

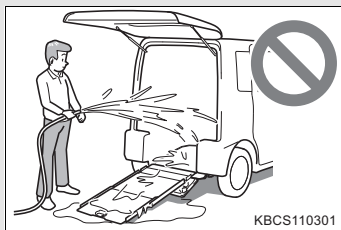


KBCS410405

⚠ 警告

■ 車いす乗車スペースを清掃するときは

車内を水洗いしないでください。
また、飲みものをこぼしたり、雨水などがかからないように注意してください。電気部品に水がかかると、故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
万一、電気部品に水がかかってしまった場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。



KBCS110301

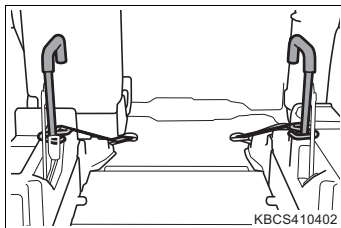
■ 車いす固定ベルトの取り外しについて

車いす固定ベルトを取り外した状態で、車いすの乗車は絶対にしないでください。取り外したままでは、車いすが固定できず大変危険です。

⚠ 注意

■ 車いす固定ベルトを取り外す前に

固定ベルトを取り外すときは、ウインチベルトがねじれないよう、手すりにフック（左右）を確実に引っかけてください。ウインチベルトをいっぱいまで巻き取ると、電動ウインチ装置内でウインチベルトが絡むなどして故障の原因となります。



KBCS410402

■ 車いす固定ベルトを取り付ける前に

固定溝や固定金具に泥や小石、砂などが付着していないことを確認してから取り付けてください。

万ーの場合には

5

5-1. パンクしたときは

パンクしたときは …………… 80

5-2. 故障かな？とお考えになる前に

ヒューズの交換 …………… 95

ワイヤレスリモコンの

電池交換 …………… 97

5-3. 緊急時の対処法

電動ウインチが

作動しないときは …………… 99

車両を輸送するときは …… 103

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク修理剤ボトル 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です) パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できない場合があります。(→ P. 81)

タイヤパンク応急修理セットで応急修理したタイヤの修理・交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。タイヤパンク応急修理セットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

工具・ジャッキの取り扱いについては、別冊「ハイゼットカーゴ／アトレー取扱説明書」の『パンクしたときは』を併せて参照してください。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

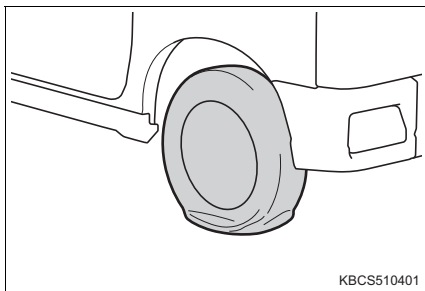
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなり過ぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク修理剤が漏れないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



KBCS510401

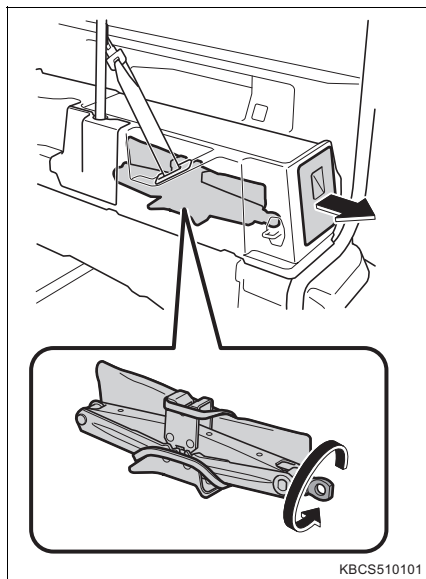
 知識**■ タイヤパンク応急修理セットで修理できないパンク**

次の場合は、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかに外れているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 か所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- パンク修理剤の有効期限が切れているとき

工具・ジャッキの取り出しかた

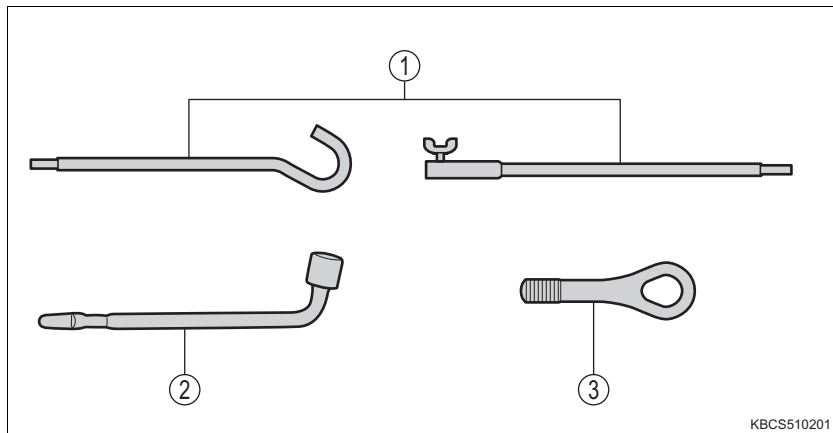
ふたを取り外し、ジャッキをゆるめてジャッキ・工具袋を取り出します。



KBCS510101

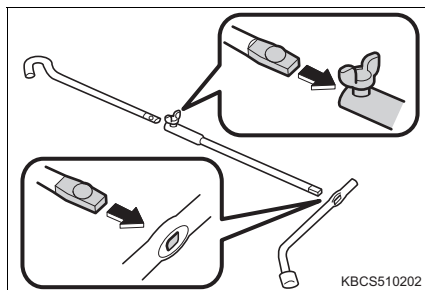
工具

工具袋の中に収納されています。(→ P. 81)



- ① ジャッキハンドル
- ② ホイールナットレンチ
- ③ けん引フック

ジャッキハンドルは、図のように組み立ててください。



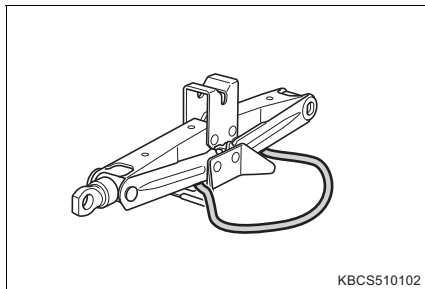
⚠ 警告

■ ジャッキハンドルを使用するときは

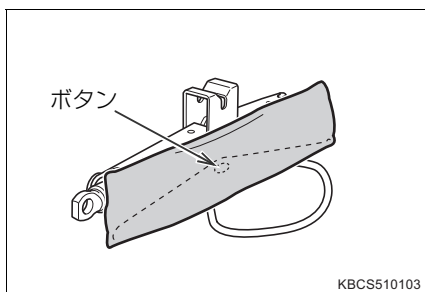
使用中、不意に分解しないように、ジャッキハンドル各部を確実に組み付け、接続用ボルトをしっかりと締め付けてください。(→ P. 82)

工具・ジャッキの収納のしかた

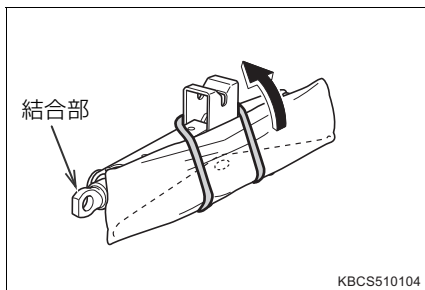
- 1 付属のゴムバンドをジャッキの下部に取り付ける



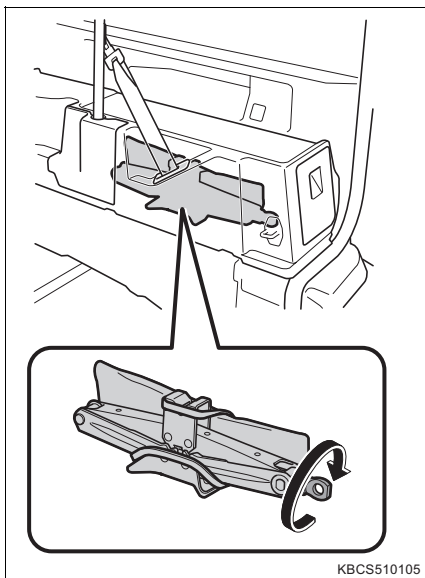
- 2 工具袋をボタンのない側を手前にして、ジャッキの前側に置く



- 3 工具袋の中にある工具をジャッキハンドル結合部側に寄せ、ゴムバンドをジャッキの上部にかける



- 4 工具類を収納し、ジャッキを締め
て固定する

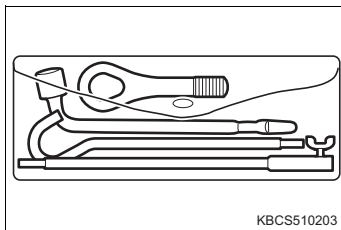


KBCS510105

知識

■ 工具を収納するときは

振動で音が発生するおそれがあります
ので、図のように収納してください。



KBCS510203

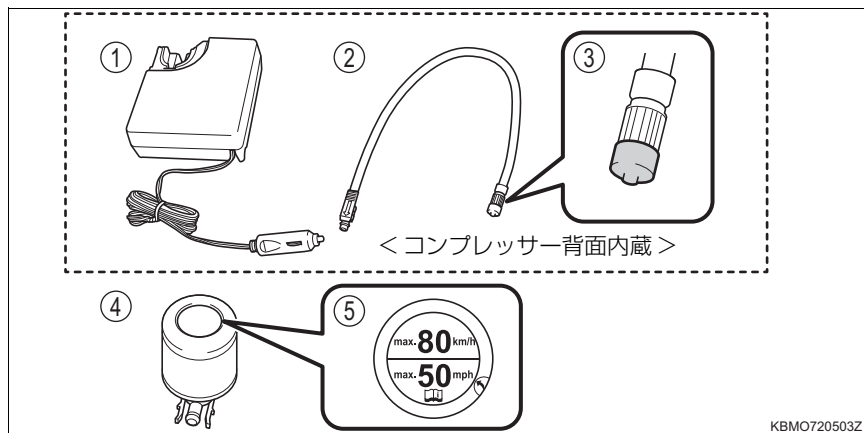
警告

■ 工具・ジャッキを使用したあとは

所定の場所に確実に保管してください。

車室内などに放置すると、乗降時につまずいたり、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに工具が飛んできて乗員に当たるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

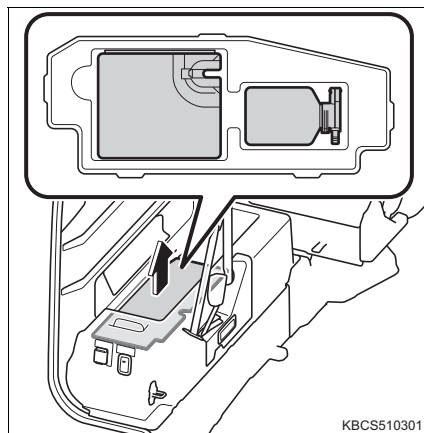
タイヤパンク応急修理セットの内容／各部の名称



- ① コンプレッサー
- ② ホース
- ③ ホース栓
- ④ パンク修理剤ボトル
- ⑤ 速度制限シール

タイヤパンク応急修理セットの取り出し方

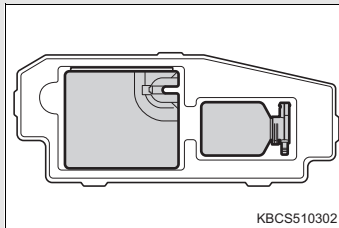
デッキボードを取り外し、タイヤパンク応急修理セットを取り出してください。



⚠ 警告

■ タイヤパンク応急修理セットを取り出したときは

タイヤパンク応急修理セットは図のように指定の位置に収納してください。急ブレーキ時などにタイヤパンク応急修理セットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



KBCS510302

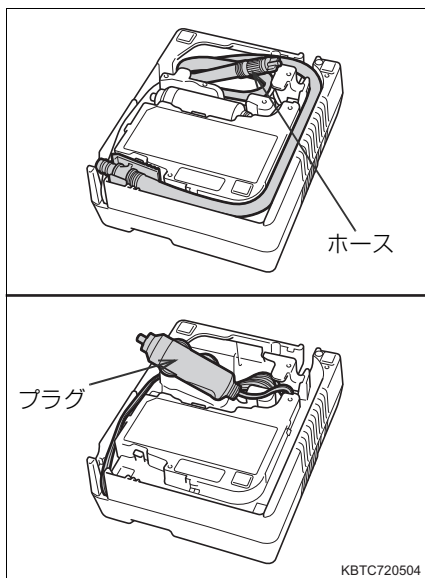
応急修理するとき

1 パンク修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す

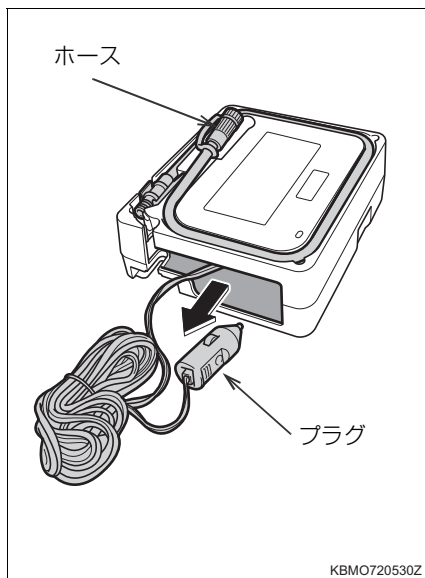
緩衝材が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
(新しく購入したパンク修理剤ボトルには、緩衝材が入っていません)

2 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出す

▶タイプ A



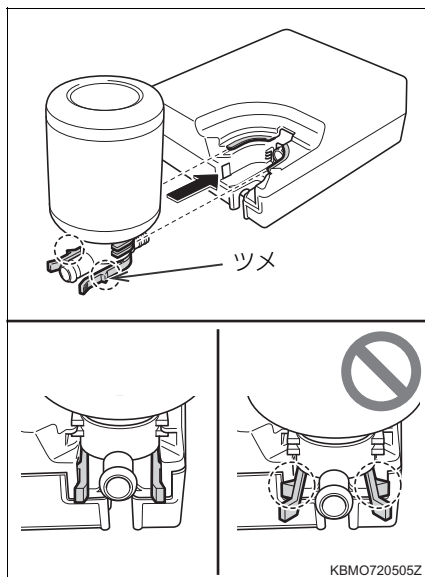
▶タイプ B



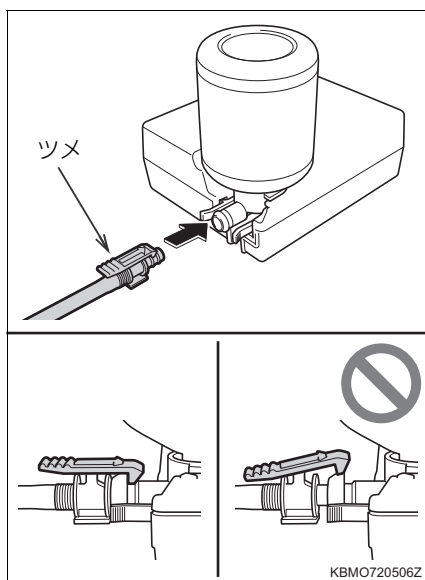
3 パンク修理剤ボトルをよく振る

パンク修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

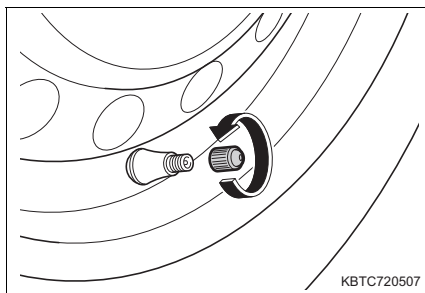
- 4 コンプレッサーにパンク修理剤ボトルを強く押し込み固定する
ボトルのツメが固定されるまで、しっかり押し込んでください。



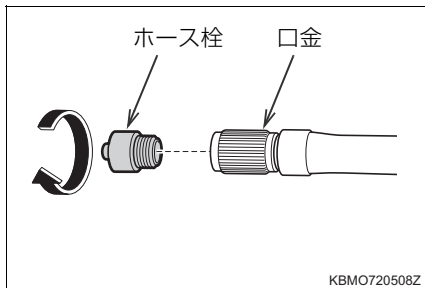
- 5 パンク修理剤ボトルにホースを差し込む
ホースのツメが固定されるまでしっかり差し込んでください。
接続部が確実に固定されていることを確認してください。



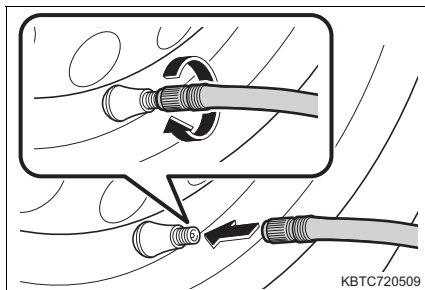
- 6 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外す



- 7 ホースの口金からホース栓を取り外す

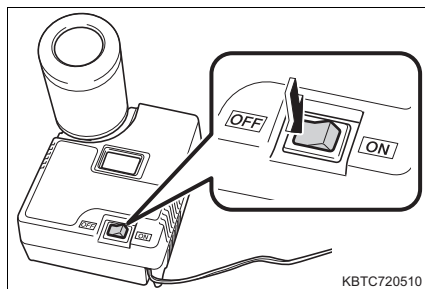


- 8 ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続する
ホースの口金を回して最後までしっかりねじ込みます。

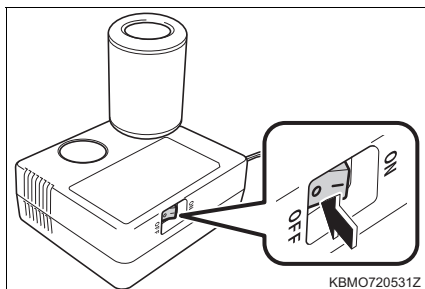


- 9 コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認する

▶タイプ A

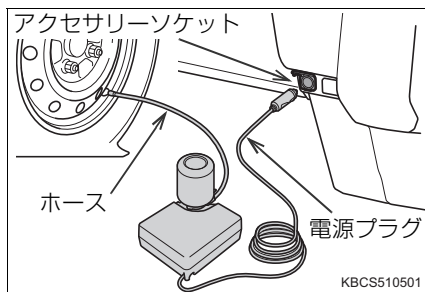


▶タイプ B

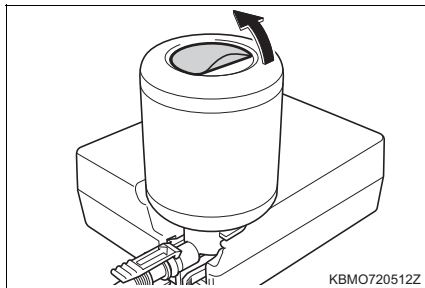


- 10** コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリースOCKETに差し込む

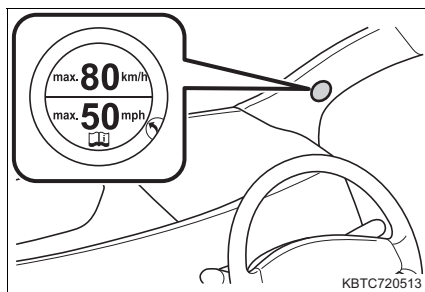
手順 **9** までの作業を終えてから、アクセサリースOCKETに差し込んでください。



- 11** パンク修理剤ボトルの速度制限シールをはがす



- 12** 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



- 13** タイヤの指定空気圧を確認する

タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

- 14** エンジンを開始する

- 15** コンプレッサーの電源を“ON”にし、パンク修理剤と空気を充填する

- 16** 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧する

- ① コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくはパンク修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約 300 ～ 400kPa まで上がります。
- ② 1 分程度(低温の場合は 5 分程度)で実際の空気圧表示になります。
- ③ 指定空気圧になるまで昇圧します。

次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

- ・パンク修理剤が 5 分以内に充填できない
- ・25 分以内に指定空気圧まで上がらない

- 17** 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を“OFF”にする

- 18** アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取り外す

ホースの口金を取り外すときにパンク修理剤が漏れることがあります。

- 19** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

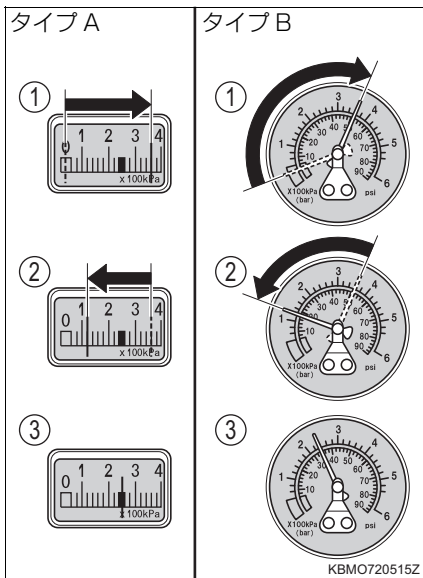
- 20** ホースの口金にホース栓を取り付ける

- 21** 一旦パンク修理剤ボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、ラゲージルームに収納する

コンプレッサーに取り付けたボトル、ホース、ホース栓は取り外さないでください。取り外すとボトル内に残ったパンク修理剤がこぼれるおそれがあります。

- 22** 空気が抜けるのを防ぐため、ただちに走行を開始する

急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下で慎重に運転してください。



- 23 約 5km 程度走行後、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にする
- 24 タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する
- ・コンプレッサーを車両に接続する
 - ・エンジンを始動する
 - ・コンプレッサーの電源を“ON”にして作動させたあと、電源を“OFF”にして空気圧ゲージで確認する
- 25 指定空気圧であれば、パンク応急修理を完了する
- ▶ 空気圧が 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合
手順 6 ～ 23 を繰り返して行って、指定空気圧まで昇圧してください。
- ▶ 空気圧が 130kPa 以下に低下していた場合
タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。
- 26 異常がなければ、ただちにダイハツサービス工場まで走行する
- ・急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。
 - ・100km 以上の距離を走行しないでください。



知識

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

タイヤパンク応急修理セットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ タイヤパンク応急修理セットの点検について

- パンク修理剤の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はパンク修理剤ボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク修理剤は使用しないでください。タイヤパンク応急修理セットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- コンプレッサーの電源プラグをアクセサリソケットに差し込み、エンジンスイッチを“ACC”にして、作動の確認をしてください。

■ タイヤパンク応急修理セットについて

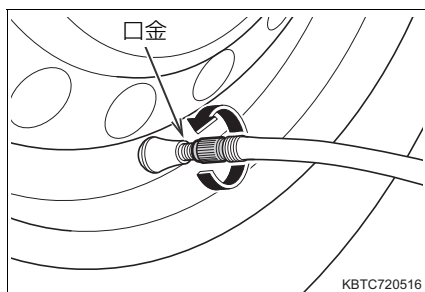
- タイヤパンク応急修理セットは自動車タイヤの空気充填用です。
- タイヤパンク応急修理セットのパンク修理剤ボトルとホースは、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク修理剤ボトルとホースの交換は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 外気温度が -30℃～60℃のときに使用できます。

知識

- タイヤパンク応急修理セット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク修理剤が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク修理剤がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などでただちにふき取ってください。
- コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- コンプレッサーをタイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。
- 新しいパンク修理剤ボトルは、ダイハツサービス工場でご購入ください。

■ 空気を入れ過ぎてしまったとき

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



警告

■ タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などにタイヤパンク応急修理セットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤパンク応急修理セットはお客様の車専用です。他車には使わないでください。他車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク修理剤について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■ パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

警告

- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- コンプレッサーの使用中に、作動が鈍くなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30分以上放置してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、メーターやウィンドウガラスなど、運転の妨げになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク修理剤を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- お車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルを取られたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 注意**■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- タイヤパンク応急修理セットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- タイヤパンク応急修理セットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- タイヤパンク応急修理セットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧ゲージなどに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ヒューズの交換

ヒューズを点検する前に、各装置ごとの作動条件（→ P. 40）をすべて満たしていることを確認してください。

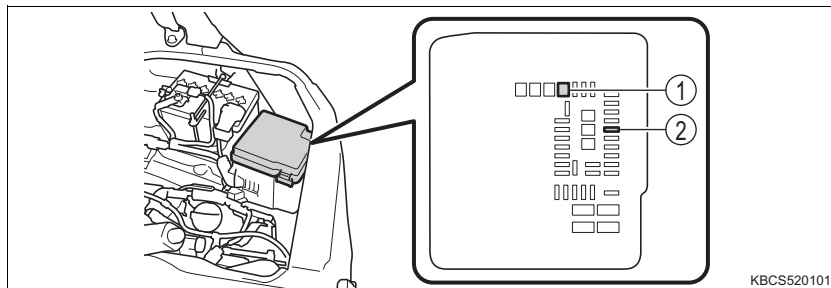
作動条件を確認したにもかかわらず、装置が正常に作動しないときは、ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズが切れたときは、必ず規定容量のヒューズと交換してください。

ヒューズの位置

■ エンジンルーム ヒューズボックス

エンジンルーム ヒューズの点検・交換方法については、別冊「ハイゼットカーゴ／アトレイ取扱説明書」の『ヒューズの点検・交換』をお読みください。



	ヒューズ名称	アンペア数	使用装置
①	WELCAB	30A	電動ウインチ
②	WELCAB NO.2	10A	電動ウインチ



知識

■ ヒューズを交換したあとは

次の場合はダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- 交換しても再度ヒューズが切れるとき
- 交換しても電気系統の装置が働かないとき



警告

■ お車の故障や火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないとお車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しない
- 必ずダイハツ純正ヒューズか同等品を使用する
- ヒューズやヒューズボックスを改造しない

ワイレスリモコンの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

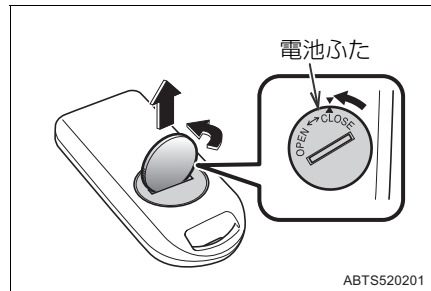
用意するもの

- コインなど、電池ふたの溝に差し込めるもの
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

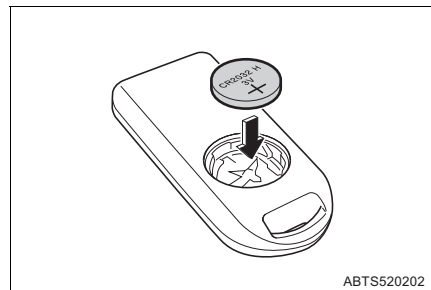
1 電池ふたを外す

コインなどを電池ふたの溝に差し込み、▲マークが合う位置まで OPEN 側にまわし、電池ふたを外します。



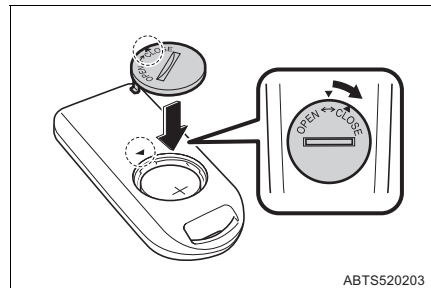
2 電池を交換する

電池を取り出し、新しい電池の + 側を上（電池ふた側）にして挿入します。



3 電池ふたをはめる

- ・電池ふたと送信機の▲マークを合わせてはめます。
- ・コインなどを電池ふたの溝に差し込み、CLOSE 側にまわし、電池ふたを締め込みます。



4 作動確認をする

電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中（6 秒以内）に上昇スイッチまたは下降スイッチを押して、動作表示 LED が緑色点滅することを確認します。

 知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はダイハツサービス工場、時計店、カメラ店などで購入できます。

 警告

■ ワイヤレスリモコンの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- ワイヤレスリモコンにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取り外した電池は、お子さまに触れさせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

 注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことをお守りください。

- 電池交換時に部品を紛失しない
- 電池ふたを曲げたりしない
- 電池以外の部品に触れたり、動かしたりしない
- 電池の + 極と - 極は必ず正しい向きにして挿入する
- 電池挿入部の電極を曲げたり、ゴミや油などを付着させない

電動ウインチが作動しないときは

次の処置をしてください。

作動条件の確認

作動条件をすべて満たしていることを確認してください。(→ P. 40)

ワイヤレスリモコンの確認

電池が消耗すると、次の症状が現れます。(電池寿命は約 1 年間です)

- 著しく作動可能距離が短くなる
- 動作表示 LED が赤色点灯しなくなる
- 動作表示 LED が緑色点滅しなくなる

いずれかにあてはまる場合は電池を交換してください。(→ P. 97)

■ ワイヤレスリモコンの紛失・電池切れしたとき

緊急用ウインチスイッチで車いすの乗降を行ってください。(→ P. 100)

■ 車いす乗車途中にウインチ操作ができなくなったときは

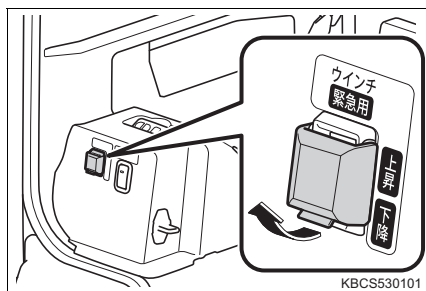
介助の方が、車いすをそのまま押し上げて乗車させてください。

ウインチ操作ができなくなっても、ウインチベルトをロックしている間は後退防止機能が作動して、車いすの後退を防止します。

緊急用ウインチスイッチの使いかた

ワイヤレスリモコンの電池消耗などでワイヤレスリモコンが使用できないような緊急時は、緊急用ウインチスイッチで車いすの乗降ができます。

1 カバーを開く

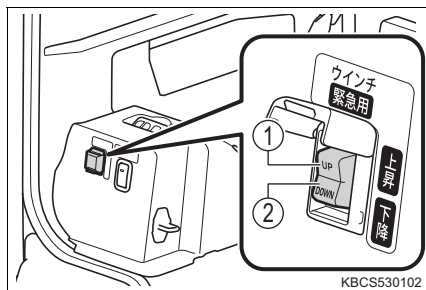


2 スイッチを操作する

① 上昇

② 下降

スイッチを押している間のみウインチが作動します。



ヒューズの点検・交換

作動条件およびワイヤレスリモコンの電池を確認しても作動しない場合は、ヒューズを点検・交換してください。(→ P. 95)

作動条件の確認、ワイヤレスリモコンの電池交換、緊急ウインチスイッチの操作、およびヒューズの点検・交換をしても作動しない場合

ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

修理が完了するまで、絶対に車いすを載せないでください。

■ 車いす乗車の方のみ車外に降ろすときは

万一、電動ウインチが手動でも作動しなくなり、車いすを車外に降ろすことができなくなったときは、次の方法で車いす乗車の方のみ降ろしてください。

① スライドドアを全開にする

② 車いす乗車者用 3 点式シートベルトを外し、車いす乗車者を降ろす

■ 手動でウインチベルトが巻き取れないときは

ウインチベルトに雨や雪などが付着したり、寒冷時においてウインチベルトが凍結した場合、手動でウインチベルトの巻き取りができなくなることがあります。

手動でウインチベルトの巻き取りができないときは、ウインチベルトに付着した雨や雪などをふき取ってから、ウインチベルトを巻き取ります。

 警告**■ 緊急用ウインチスイッチを使用するときは**

- 緊急用ウインチスイッチは、リモコンによるウインチの操作ができなくなった場合のみ使用してください。
- スイッチ操作は介助の方とは別で、補助の方が行ってください。介助の方が一人で操作し、車いすから手を離すと脱輪・転倒・手足の干渉などのおそれがあり危険です。
- 次の操作を行うと、車いすが車内またはスロープの途中で急に下がって転倒したり、重大な傷害におよぶおそれがあり危険です。
 - ・ 車いす乗降中にベルトフリースイッチを長押しする
 - ・ ウインチベルトのロックが解除されている状態で、手足での押し上げ乗降をする

■ 車いすを車内に乗り入れた状態で、電動ウインチをベルトフリーモードにするときは

車いすが急に下がらないように十分注意してください。

ベルトフリーモードにするときは、車いすのブレーキが両輪ともかかっていることを確認し、車いすのブレーキを両輪とも解除後、車いすが急に下がらないよう、介助の方がしっかりと車いすを支えてください。

■ 車いす乗車者のみを車外に降ろすときは

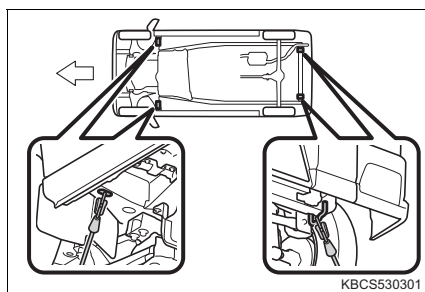
平坦地で車の通行が少ない、安全な場所を選んで車外に降ろしてください。坂道での降車は大変危険ですので、絶対に行わないでください。

車両を輸送するときは

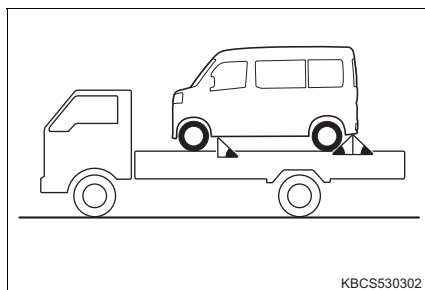
車両運搬車や船舶で輸送するときは、次の処置をしてください。

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が目安で 45° になるように固縛する

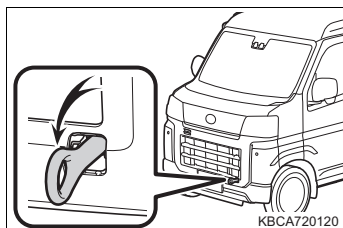


知識

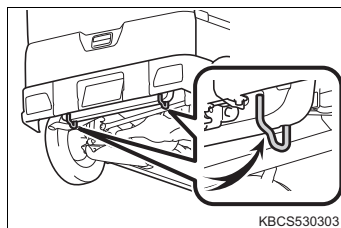
■ 輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。また、リヤ側のフックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引することはできません。

▶ フロント（標準車と同じ）



▶ リヤ



車両情報**6****6-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ 106

メンテナンスデータ

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイール サイズ	タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
145/80R12 80/78N LT	12×4B	240 (2.4)	260 (2.6)

点検・整備項目**7****7-1. 点検・整備項目**

定期点検整備 108

定期点検整備

故障を減らして長く大切に使うために、定期点検整備をお願いします。
 点検結果を記録する際には、巻末の記録簿を A4 サイズにコピーして使用してください。
 空欄については点検および交換の必要はありません。

点検整備項目	点検時期			交換時期 (年)	備考		
	日常点検	自家用車					
		12 か 月 ご と	24 か 月 ご と				
スロープ部							
各部取り付け部のゆるみ、損傷	○	○					
スライド部の損傷	○	○			スムーズさ		
作動具合（異音、スムーズな作動）	○	○			アシスト機構へグリースアップ		
電動ウインチ部							
作動具合（異音、スムーズな作動）	○	○					
ベルトの汚れ、ほこりなどの付着によるベルトの巻き取り不良	○	○			清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまで使用しないこと (ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は使用不可)		
ベルトの傷、ほつれ	○	○			ほつれが始まったら交換		
フックの損傷、腐食	○	○			変形、腐食があれば交換		
車いす固定ベルト部							
各部取り付け部のゆるみ、がた、損傷	○	○					
ベルトの傷、ほつれ	○	○			ほつれが始まったら交換		
フックの損傷、腐食	○	○			変形、腐食があれば交換		
車いす用シートベルト部							
ベルトの傷、ほつれ	○	○			ほつれが始まったら交換		

さくいん

こんなときは （症状別さくいん）	110
お車から音が鳴ったときは （音さくいん）	114
五十音順さくいん	115

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、ダイハツサービス工場にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

車いすについて



車いすがスロープおよび車内の正しい位置に乗り入れできない

- お使いの車いすが乗車可能な車いすかどうか確認してください。
（→ P. 34）
- スロープの耐荷重 200kg 以内で使用してください。（→ P. 17）
- 正しい手順で乗り入れているか、確認してください。（→ P. 49）



車いす固定ベルトのフックが車いすにかからない

- お使いの車いすが乗車可能な車いすかどうか確認してください。
（→ P. 34）
- 車いすを所定の位置まで乗り入れていますか？（→ P. 50）
- 車いすのフレーム形状によっては、車いす固定ベルトのフックが正しくかけられないときがあります。



車いす乗車者用 3 点式シートベルトが正しく着用できない

- 車いすのアームレスト下側にカバーなどありませんか？（→ P. 70）
- シートベルトの装着手順を確認してください。（→ P. 66）

スロープについて



スロープの引き出し・格納ができない

- スロープの引き出しレール部に異物がないか確認し、異物があるときは清掃してください。（→ P. 74）



スロープの前倒し・格納ができない

- スロープを前倒しにするときは右の操作レバーを操作してください。（→ P. 44）
- スロープ格納時、“カチッ”と音がするまで起こしましたか？（→ P. 45）

車いすの車内への乗り入れについて



ベルトフリースイッチを長押ししても、ベルトが引き出せない

- 作動条件をすべて満たしていますか？（→ P. 40）



車いす乗車の方の足や車いすの後輪が、格納したリヤシートやスロープに当たる

- お使いの車いすが乗車可能な車いすかどうか確認してください。（→ P. 34）
- 車いすを所定の位置まで乗り込ませましたか？（→ P. 50）
- 車いすが左右傾いて固定されていませんか？



車いすを車内に入れたあと、車いすが下がってしまう

- 車いすのブレーキは両輪ともかけられていますか？（→ P. 61）
- ベルトフリースイッチの作動表示灯が点灯していませんか？（→ P. 52）



ウインチベルトが巻き取れない

- 車いすやウインチベルトが車内のものに引っかかっていたり、ウインチベルトがねじれていませんか？（→ P. 59）
- ウインチベルトに雨や雪などが付着したり、ウインチベルトが凍結していませんか？（→ P. 101）



ワイヤレスリモコンを操作しても電動ウインチが作動しない

- 周囲の電波状況により下降スイッチまたは上昇スイッチを押しても電動ウインチが作動しなくなることがあります。（→ P. 53）
- 電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中に下降スイッチまたは上昇スイッチを押しましたか？（→ P. 53）
- 下降スイッチまたは上昇スイッチを断続的に押していませんか？
- 電池が消耗していませんか？（→ P. 97）

故障かな？と思ったら**電動ウインチが作動しない**

- 作動条件を確認してください（→ P. 40）。
- P. 99 のことを確認してください。
作動条件およびヒューズの確認をしても作動しないときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

**ブザーが鳴りだした**

- 「お車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（P. 114）をご確認ください。

トラブルが発生した**ワイヤレスリモコンを紛失した・電池が切れた**

- 電池が切れたときは、P. 97 の方法で電池を交換してください。
- ワイヤレスリモコンを使わずに車いすを車内外に乗降・固定することができます。（→ P. 100）
ワイヤレスリモコンを紛失したときはダイハツサービス工場にご相談ください。

お車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、お車の状態や誤操作などをお知らせするためにブザーが鳴ります。

ベルトフリースイッチ操作時

状況	原因	詳細
ベルトフリースイッチを長押ししたとき	ベルトフリーモードに移行	P. 41
	ベルトフリーモード中（作動表示灯点灯）	
	誤操作により作動停止したとき	

ワイヤレスリモコン操作時

状況	原因	詳細
ワイヤレスリモコンの電源を入れてから上昇または下降スイッチを押したとき	電動ウインチ作動時、負荷がかかっている	P. 41
	電動ウインチ上昇作動時の停止位置で負荷が増大	
	誤操作により作動停止したとき	
	電動ウインチ作動中、バックドアを閉めて作動停止したとき	

その他の操作時

状況	原因	詳細
シフトレバーをP以外に動かしたとき	電動ウインチが作動している	P. 41
シフトレバーをPにしてバックドアを開けてからウインチを5分以上操作しなかったとき	省電力モードに移行	

五十音順さくいん

あ

安全なドライブのために

車いすの固定およびシート

ベルトの着用について 15

車いすの車内外への

乗降について 10

車両火災・故障・損傷を

防ぐために 17

う

ウインチスイッチ

作動 50, 51

作動条件 40

お

お子さまを乗せるとき

チャイルドシート 24

ワイヤレスリモコンの電池に関す

る警告 98

お手入れのしかた

車いす乗車スペースの清掃 77

スロープの清掃 74

ベルトの清掃 76

き

緊急時の対処法

電動ウインチが

作動しないとき 99

く

車いす

重量 33

乗車可能な車いす 34

車いす固定ベルト

解除 62

固定 60

清掃 76

車いす乗車者用 3 点式シートベルト

シートベルトの構成 65

着用 66

外しかた 69

車いす乗車スペースの清掃 77

車いすの車内外への乗降

車内への乗り入れ位置 50

電動ウインチ 49, 51

車いすの車内での固定・解除

解除 62

固定 60

こ

工具・ジャッキの取り出し 81

故障かな？とお考えになる前に

ヒューズの交換 95

ワイヤレスリモコンの

電池交換 97

さ

作動条件 40

し

シート	
シートの構成および	
標準車との相違点	20
チャイルドシート	24
リヤシート	21
シートベルト	
車いす乗車者用 3 点式	
シートベルト	65
室内装備	
リモコンポケット	29
室内レイアウト	32
ジャッキ	81
ジャッキの取り出し	81

す

スロープ	
内幅	33
格納	43
清掃	74
耐荷重	33
展開	42
前倒し機構	44
スロープを使用する前に	
ご使用前に確認して	
いただきたいこと	32
室内レイアウト	32
重量	33
乗車可能な車いす	34
スロープ内幅	33
路面	32

そ

操作の流れ	
車いすを車外に降ろすとき	38
車いすを車内に乗り入れ	
固定するとき	36

た

タイヤ	
空気圧	106
ホイールサイズ	106

ち

チャイルドシート	24
----------	----

て

手すり	28
点検・整備項目	
定期点検整備	108
電動ウインチ	
ウインチスイッチ	50, 51
作動しないとき	99
作動条件	40
車外への降車	51
車内への乗り入れ位置	50
手動での引き出し	49
清掃	76

は

パンクしたとき	80
工具・ジャッキの	
取り出し	81
タイヤパンク応急修理セット	85

ひ

ヒューズ	
エンジンルーム	95

ふ

ブザー	41
フロア照明灯	28

へ

ベルトの清掃	76
ベルトフリースイッチ	49, 51

ま

万一の場合には 故障かな？と お考えになる前に	95
パンクしたときは	80

め

メンテナンスデータ	106
-----------------	-----

り

リモコンポケット	29
リヤシート 格納	21
標準車との相違点	20
リヤヒーター	27

わ

ワイヤレスリモコン 各部の名称	48
電池交換	97

**お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社、または
ダイハツお客様コールセンターまでお願いいたします。**

**お問い合わせには、あらかじめ次の事項に
ついて確認の上、ご連絡願います。**

- (1) 車名および型式、登録番号
- (2) ご購入年月日
- (3) 走行距離
- (4) お客様のご住所、お名前、電話番号

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。

ダイハツお客様コールセンター

フリーコール  0800-500-0182

受付時間 9:00～17:00

〒563-8651 大阪府池田市ダイハツ町1番1号



弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて掲載しております。(<https://www.daihatsu.com/jp/privacy.html>)

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

シートベルトを締めましょう

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。